

# 柏市健康増進計画

## 令和3年度 進捗状況報告書

令和5年3月

# 目次

1	栄養・食生活	1
2	身体活動・運動	10
3	休養・こころの健康	18
4	喫煙	26
5	飲酒	33
6	歯・口腔の健康	36
7	糖尿病	47
8	循環器疾患	52
9	がん	58

表の見方	【事業名】	* : 事業名, 事業概要, 指標が全て再掲であるもの
		◇ : 事業名は再掲だが, 事業概要または指標が異なっているもの
	【ライフステージ】	○ : 該当
		△ : 一部該当

# 1. 栄養・食生活

(1)適正体重を維持するための知識の普及																		
①成人女性のやせ(20歳代)[BMI 18.5未満]及び成人男性の肥満[BMI 25.0以上]の減少																		
②児童・生徒の肥満[標準体重の+20%以上]の減少																		
③体重の変化を気にしている人(成人)の割合の増加																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 健康増 進課	給食施設指 導事業	①個別指導(各施設を個別に巡回し、現地指導を実施。電話、来所による相談) ②集団指導(テーマに応じ職種別、施設種類別に研修会を開催) ③調査報告(各給食施設の運営・栄養管理状況を把握するため年2回調査実施)	他課 (学校保健課・ 保育運営課)  柏市保健所管 内集団給食研 究会	①なし ②なし	・肥満及びやせ の割合の減少  ・啓発媒体活用 増加	△	△	△	○	○	△	給食施設指導件数	令和2年度同様、令和3年度も新型コロナウイルスまん延に伴い、個別巡回を縮小したため指導件数が減少した。巡回では、令和2年度に日本人の食事摂取基準が改訂となったことから、基準に沿った栄養管理が行われているか確認し、指導・助言を行った。 特に令和3年度は、肥満者の割合が増加した施設が大幅に減少した。コロナ禍となった令和2年度は、肥満者が増加した施設が大幅に増えたため、コロナ禍前の令和元年度との割合を比較したところ、感染拡大前の状況とほぼ変わらなかった。しかし、事業所においては肥満者の割合が増加傾向にある施設がみられた。在宅勤務が主流となり、喫食者の在宅時間が増加していることが要因のひとつと考えられる。在宅勤務のため、事業所で給食を食べない対象者に対しても啓発媒体等の活用を通して働きかけを行いたい。	個別巡回を新型コロナウイルス感染症拡大前と同様に実施できるよう進める。 各施設の肥満及びやせの割合変動を確認し、増加傾向にある施設や該当者が多い施設へ改善対策の指導・助言を行うとともに、新たな改善案を検討し取り組んでいく。				
						H29	H30	R元	R2	R3	33件	39件			47件	11件	5件	
						「肥満に該当する者の割合」の増加施設割合 (国基準：、H26年度比+5%以上)						2.8%			5.6%			
						「やせに該当する者の割合」の増加施設割合 (国基準：、H26年度比+5%以上)						0.9%			0.0%			
						※平成3年度からは厚労省より指導方針が示されなかったため、H26との比較は行わず前年度との比較で指導・助言を行っている。						48.1%			57.8%	55.4%	76.4%	22% (令和元年度比56.0%)
						「肥満に該当する者の割合」の増加施設割合 (各施設における前年度比増)						39.8%			48.6%	35.7%	54.7%	42.2%
						「やせに該当する者の割合」の増加施設割合 (各施設における前年度比増)												

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
学校教育 部 学校保 健課	学校給食提 供事業 (小学校)	給食を生きた教材とし て、児童を対象に適切な 摂取量や、成長に必要な 栄養分を習得する。  また、養護教諭と連携し、 咀嚼の重要性や栄養 バランスの取れた食事、 栄養と運動の両面を意 識することで、健康な生 活習慣を習得するための 食育事業を行う。	学校歯科医	①なし ②なし	定期健康診断 における肥満 【標準体重の+ 20%以上】の人 数の減少	○	給食実施回数(平均)					令和3年度は引き続き新型コロナウイルス 感染症対策を講じながらの学校教育活動と なったが、令和2年度のような全校かつ長 期の臨時休業がなかったこと、市内の感染 状況に応じて各教科等の活動も可能な限り 実施してきたこと、学校給食も通常時の献 立内容で提供できたことなど、子どもたちの 生活リズムが改善してきたため、これらの 影響もあって肥満度20%以上の割合が減少 したと考える。しかし、コロナ禍前の水準 には戻っていない。 本年4月に県立学校における教育活動の 制限が緩和されたことを受け、5月からは各 学校の実情に応じて授業や部活動、学校 行事等がより柔軟に実施できるようになっ たため、肥満度の改善を期待することがで きる。一方で、痩せすぎの子どもの増加は 経済的な困窮が背景にある可能性がある ため、関係機関との情報共有が必要である。 児童生徒の肥満や痩せを防ぐには、適切な 量を食べることが必要で、その量を認識で きる機会が学校での給食である。しかし、お かわりや食べ残しをしない児童生徒でも摂 取量が大きくばらついているため、配食を均 等に行うことの指導に取り組む。	令和4年度に食育に 関する調査を実施し、 令和5年度には学校 における食育の基本 的な考え方や取組目 標を整理する予定で ある。 学校歯科医や養護教 諭と連携して「よく噛 んで食べること」や 「生活リズムの大切 さ」等に関する取組が 実践できるよう働きか ける。	
							H29	H30	R元	R2	R3			
							185回	185回	181回	173回	182回			
							対象者数							
							21,917人	21,961人	22,063人	21,901人	21,976人			
							肥満【標準体重の+20%以上】の人数							
							1,515人	1,606人	1,696人	2,178人	1,791人			
							肥満【標準体重の+20%以上】の割合							
							6.9%	7.3%	7.6%	9.9%	8.1%			
							やせ【標準体重の-20%以上】の人数							
							304人	286人	268人	271人	363人			
							やせ【標準体重の-20%以上】の割合							
							1.4%	1.3%	1.2%	1.2%	1.7%			
学校教育 部 学校保 健課	学校給食提 供事業 (中学校)	給食を生きた教材とし て、生徒を対象に適切な 摂取量の体得、成長に 必要な栄養分を習得す る。  また、養護教諭と連携し、 咀嚼の重要性や栄養 バランスの取れた食事、 栄養と運動の両面を意 識することで、健康な生 活習慣を習得するための 食育事業を行う。	学校歯科医	①なし ②なし	定期健康診断 における肥満 【標準体重の+ 20%以上】の人 数の減少	△(中学生のみ)	給食実施回数(平均)					令和3年度は引き続き新型コロナウイルス 感染症対策を講じながらの学校教育活動と なったが、令和2年度のような全校かつ長 期の臨時休業がなかったこと、市内の感染 状況に応じて各教科等の活動も可能な限り 実施してきたこと、学校給食も通常時の献 立内容で提供できたことなど、子どもたちの 生活リズムが改善してきたため、これらの 影響もあって肥満度20%以上の割合が減少 したと考える。しかし、コロナ禍前の水準 には戻っていない。また、小学校よりも 改善の割合が少なく、これはコロナ禍前後 での部活動等での運動量の差が小学校より もあるからだと考えられる。 本年4月に県立学校における教育活動の 制限が緩和されたことを受け、5月からは各 学校の実情に応じて授業や部活動、学校 行事等がより柔軟に実施できるようになっ たため、肥満度の改善を期待することがで きる。一方で、痩せすぎの子どもの増加は 経済的な困窮が背景にある可能性がある ため、関係機関との情報共有が必要である。 児童生徒の肥満や痩せを防ぐには、適切な 量を食べることが必要で、その量を認識で きる機会が学校での給食である。しかし、お かわりや食べ残しをしない児童生徒でも摂 取量が大きくばらついているため、配食を均 等に行うことの指導に取り組む。	令和4年度に食育に 関する調査を実施し、 令和5年度には学校 における食育の基本 的な考え方や取組目 標を整理する予定で ある。 学校歯科医や養護教 諭と連携して「よく噛 んで食べること」や 「生活リズムの大切 さ」等に関する取組が 実践できるよう働きか ける。	
							H29	H30	R元	R2	R3			
							180回	180回	177回	173回	179回			
							対象者数							
							9,852人	9,754人	9,735人	9,789人	10,135人			
							肥満【標準体重の+20%以上】の人数							
							714人	728人	846人	1,008人	967人			
							肥満【標準体重の+20%以上】の割合							
							7.2%	7.5%	8.7%	10.3%	9.5%			
							やせ【標準体重の-20%以上】の人数							
							251人	287人	264人	362人	372人			
							やせ【標準体重の-20%以上】の割合							
							2.5%	2.9%	2.7%	3.7%	3.7%			

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性		
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期					
保健福祉部 福祉政策課 地域包括支援課	柏フレイル 予防プロジェクト2025	「フレイル(虚弱)」という 概念を新たに取り入れ、 市民、関係団体、学識経 験者、市による「推進委 員会」を設置・運営しな がら、健康づくり事業の 効果的な運動と地域を 基盤とした市民主体の活 動を推進	医師会、歯科医 師会、薬剤師 会、東京大学、 ふるさと協議 会、社会福祉協 議会、民生委員 児童委員、柏市 民健康づくり推 進員、スポーツ 推進委員、東葛 北部栄養士会、 リハビリテーシ ョン連絡会、地域 包括支援セン ターなど	①第一生命、介 護事業者、イオ ン、JR東日本、 日立、フィットネ ス振興会、ダン ロップスポーツウ エルネス、吉田 記念テニス研修 センター、スマ ートフィット100 ②ジェクサー・ジ ムフラット	市民の意識・行 動変容(栄養、 身体活動、社会 参加の促進)							推進委員会実施回数				
												H29	H30	R元	R2	R3
												3回	2回	1回	2回	2回
									○	○	○			かしわフレイル予防ポイント制度へ フィットネス振興会などの民間事業 者が参加、連携することで、運動・ス ポーツを中心に活動の増加が見て 取れた。そのほかにも、ラジオ体操 などのコロナ禍でも可能な活動が広 がるとともに、感染対策を実施し、令 和2年度に比べて本格的な活動の 再開が進んだ。 フレイル予防の啓発としては、柏レ イソルやラコルタ柏などでの各種イ ベントに参加してポイント制度のカー ド発行を行い、柏駅でのPRを継続実 施。特に、ワクチン接種会場でカー ド発行を行うことにより、累計の発行 数は一定の目標を達成した。 令和4年度は、スポーツジム以外に もポイント制度対象の事業を拡大す ることで、カード発行した市民が楽 みながら健康づくりに取り組むため の環境整備を目標とする。	フレイル予防によるま ちづくりの実現のため、フレイル予防につ ながる多様な活動・ 場の増加を目指す。 そのために、かしわフ レイル予防ポイントの 対象事業の拡大と、 地域における市民主 体の活動の促進を図 り、フレイル予防の普 及・啓発に努める。	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健福祉部 地域包括支援課	フレイル予防事業	主に高齢者に対するフレイル(介護予防)事業のうち、栄養をテーマとしたプログラムについて、管理栄養士等が講座を行う。	東葛北部在宅栄養士会、地域包括支援センターなど	①なし ②なし	市民の意識・行動変容(栄養の改善)							フレイル予防講座(栄養)の参加者数	令和3年度は、フレイルチェックや、後期高齢者の質問票で、フレイル傾向がある方に対し、個別の支援を行う事業を実施した。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みの中で、後期高齢者の健康診査受診者のフレイルと疾病の関係性等分析を行った。令和4年度は、フレイルチェックによるフレイル傾向がある方に対する個別支援の継続実施とあわせて、光ケ丘をモデル地域とし、フレイルチェックの実施や後期高齢者の質問票を活用し、地域サロン団体に対して積極的なフレイル予防を進めていく。					
						H29	H30	R元	R2	R3								
						介護予防センター主催の教室						74人			44人	27人	41人	29人
						フレイル予防出前講座						145人			199人	259人	26人	36人
						地域包括支援センター主催の教室						250人			366人	150人	33人	69人
						フレイルハイリスク者への個別支援						-			-	-	16人	7人
市民生活部 保険年金課	柏市国民健康保険 特定保健指導	国民健康保険の加入者を対象に行う、特定健康診査の結果より、メタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。  ※平成30年度から、国が示す「第3期特定健診・特定保健指導」に基づく、特定保健指導の支援期間の見直し(6ヶ月から3ヵ月)、初回面接の分割実施を導入し、集団健診にも活用している。	・柏市医師会 ・JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ) ・千葉県厚生農業共同組合連合会 ・千葉県民保健予防財団 ・千葉県国保連合会	①なし ②なし	生活習慣病の発症及び重症化の予防							特定保健指導実施率	①特定保健指導の遠隔面接の実施国の方針に基づいた感染症の予防対策として、電話や遠隔面談による特定保健指導を令和2年度より開始。 遠隔面談の周知については、受診した医療機関から対象者に直接リーフレットを渡す他、市から送付する保健指導の利用奨通知にリーフレットを同封し周知に努めた。 (利用者は21人、約4%) ②特定保健指導の電子申請を開始24時間いつでも予約ができるよう、令和3年度から電子申請による特定保健指導の予約を開始。(利用者は18人、約3%) ③積極的支援利用者へのインセンティブの付与 特定保健指導の内、積極的支援の継続を支援し中断者の抑制ができるよう、達成度に合わせたインセンティブの付与を令和2年度から開始。 ④重症化予防事業における保健指導糖尿病性腎症重症化予防プログラムの参加者を対象に、保健指導を実施。  ●令和4年度の取り組み 保健指導の実施率増加と積極的支援対象者の保健指導中断者の抑制が課題である。そのため、令和4年度も上記取組を継続する。また、積極的支援に該当する方のインセンティブの申請方法を見直し、郵送での申請と郵送による景品の送付とし利便性の向上に努めている。	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価からの課題改善を踏まえた取組を実施する。				
						H29	H30	R元	R2	R3								
						23.0%	29.0%	26.7%	23.3%	11月以降確定								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和2年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和2年度の取り組みについて	令和5年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3					
市民生活部 保険年金課	健康づくり相談	健康診査の結果により、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う。	—	①なし ②なし	健康診査の結果により、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う							相談者数					令和3年度は、特定健康診査の結果、特定保健指導に該当しない方や、「75歳以上の健康診査」、「18歳から38歳までの健康診査」、「ブレ特定健康診査」の受診後の事後フォローとして実施している。  ●令和4年度の取り組み 引き続き、健康診査の結果を元に対象者のニーズに応じた相談と支援を行うことで、生活習慣の改善による、生活習慣病の予防及び重症化予防の取組を推進していく。	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価からの課題改善を踏まえた取組を実施する。			
												H29	H30	R元	R2	R3			35人	42人	40人
保健所 健康増進課	柏市健康診査 (無保険者)	40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。対象者に個別通知、希望者は申し込み。	柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							受診者数					令和3年度の受診者数は、令和2年度から微減。 令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は12.8%であった。 75歳以上は申込制を継続。216人(16%)が申込をし、92人(42.6%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。			
												H29	H30	R元	R2	R3			278人	321人	365人
保健所 健康増進課	へるすアップ 相談	・平成29年度より実施 骨粗しょう症検査、柏市健康診査の結果、生活習慣改善の必要なかたに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスを行う。	柏市医師会	①なし ②なし	健診等結果を踏まえて自らの生活習慣を振り返り、主体的に健康づくりに取り組むことができる							相談利用率(骨粗しょう症検査受診者)					令和3年度の利用率は、令和2年度から減少。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、8月の日程が中止。9月以降は電話相談へ相談方法を変更し実施した。 対象者へ送付していた利用勧奨通知については令和3年度は通知を中止した。 利用率向上のため、令和4年度より再度利用勧奨通知を再開とする。 また、若い世代も参加しやすいよう、来所相談と電話相談を併用し実施していく。	利用率向上のため、より効果的な利用勧奨の仕方及び、相談方法について検討していく。			
												H29	H30	R元	R2	R3			10.7%	7.0%	8.3%
												相談利用率(柏市健診受診者)									
												H29	H30	R元	R2	R3	15.7%	18.7%	17.8%	9.3%	2.0%

(2) 野菜の摂取量の増加

④ 野菜摂取量の増加の割合(成人)

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性	
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期
保健所 健康増 進課	給食施設指 導事業 (◇)	①個別指導(各施設を個 別に巡回し、現地指導を 実施。電話、来所による 相談) ②集団指導(テーマに応 じ職種別、施設種類別に 研修会を開催) ③調査報告(各給食施設 の運営・栄養管理状況を 把握するため年2回の調 査を実施)	他課 (学校保健課・ 保育運営課) 柏市保健所管 内集団給食研 究会	①なし ②なし	・給食施設の食 品構成における 野菜摂取量の 増加 ・野菜料理の残 渣量の減少 ・ヘルシーメ ニューの提供増 加 ・啓発媒体活用 の増加	△	△	△	○	○	△	給食施設指導件数 H29 H30 R元 R2 R3 33件 39件 47件 11件 5件	令和2年度同様、令和3年度も新型 コロナウイルスまん延に伴い、個別 巡回を縮小したため指導件数が減 少した。 個別巡回においては、食品構成や 野菜摂取量についての聞き取りに 力を入れ、必要に応じて助言してい く。 また、各施設のコロナ禍での栄養指 導状況を確認し、喫食者へ直接的 な指導が難しい施設に向けて啓発 媒体を作成する等、効果的な周知 や配布を通して、個々に働きかけら れるよう支援を行う。	個別巡回を新型コロ ナウイルス感染拡大 前と同様に実施でき るよう進める。 個別巡回で聞き取り をした野菜摂取量に ついて考察し、新たな 改善策や啓発案を検 討する。
保健所 地域保 健課	啓発事業	イベントの中で運動、 食、タバコ等健康に関 する啓発を実施。一般市民 を対象とし、幅広いテ マについての啓発を行 う。	庁内関係各課 柏市民健康づく り推進員 各種団体及び 企業関係	①なし ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場を 作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数) H29 H30 R元 R2 R3 3,979人 3,705人 3,014人 中止 66人 啓発実施者数(栄養・食生活) 290人 1,375人 1,478人 中止 66人	新型コロナウイルス感染症拡大防 止のため、地域活動が制限される 中ではあったが、一部地域で市民を 対象とした地域健康講座や地域行 事を再開することができた。また、推 進員活動において今後の啓発事業 に繋がるよう、内部研修を実施し た。令和4年度は市民参集型の活 動を全面的に再開予定。	令和元年度以前と同 様に、地域健康講座 や健康教育等による 啓発を実施し、地域 における健康づくりを 推進する。
保健所 健康増 進課	健康づくり普 及啓発事業	イベント、健康教育の中で 運動、食、タバコ等健康 に関する啓発を実施。一 般市民を対象とし、幅 広いテーマについての啓 発を行う。	・庁内関係各課 ・各種団体及び 企業関係	①モラージュ柏 第一生命保険 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場を 作る。	○	○	○				啓発実施者数(全数) H29 H30 R元 R2 R3 1,872人 2,657人 4,973人 2,833人 3,882人 啓発実施者数(栄養・食生活) 918人 663人 946人 90人 533人 依頼の健康教育参加者数(講師・栄養士) - 155人 19人 中止 中止	図書館及びかしまインフォメーシ ョンセンターにて、展示による啓発活 動を実施した。今年度より、出前講座 の受付を再開。健康づくりに関する パンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施 のための情報収集や、 方法についての検 討・実施につなげる。

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
保健所 健康増進課	栄養改善事業	「野菜を食べよう柏協力店」事業	柏市保健所管内調理師会 庁内関係各課	①柏市内飲食店 ②なし	野菜を食べることのできる食の環境整備とする。							登録店舗数	令和3年度は市民の登録店利用を促すため、市民の方向けのチラシ及びマップを作成した。健康増進月間にあわせた企画展示や道の駅等へ配付や掲示をし、事業の周知を図った。 また、県の事業である「健康ちば協力店」登録店舗や調理師会へ登録申請書を配付し、登録推奨を行った。結果8店舗登録店を増やすことができた。 令和4年度も引き続き、市民へ事業内容の認知度を高めるため、周知用品の作成やホームページ等を活用し、野菜を摂取しやすい環境整備を進めたい。	引き続き周知用品やホームページ等効果的な周知方法を検討・実施し、店舗数の増加を目指す。市内他部署とも連携することで、市民へ事業の認知度を上げ、店舗の利用率向上から野菜の摂取量増加につなげたい。			
						H29	H30	R元	R2	R3	8店舗	25店舗			30店舗	39店舗	47店舗
保健所 健康増進課	地域・職域連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに取り組む事業所(3社) ②なし	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数	令和3年度は協議会をWEBにて開催をし、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また、事業所へのメール配信については、対面での事業展開が難しい中、定期的に健康に関する情報を配信し、従業員のかたの健康づくりに活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また講習会についても、関係機関との共催での開催を考えており、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見直し、事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。			
						H29	H30	R元	R2	R3	36社	47社			60社	62社	61社
						講習会参加事業所数					29社	52社			43社	中止	中止
経済産業部 農政課	食の安全・安心対策推進事業	農産物をサンプリングし、放射性物質検査を行う。また、検査結果についてホームページや広報などを通じて公表。	千葉県一般財団法人千葉県環境財団	①一般財団法人千葉県環境財団	食の安全・安心を確保する。							検査品目数・検体数	消費者の不安を取り除き、安心して柏産の農産物を購入できるよう継続的に検査を実施していく。また、検査の頻度等に関しては、放射性物質の影響範囲を見極めながら費用対効果のバランスも考慮し実施していく。	検査や生産者への助言等を通じて、引き続き「食の安心・安全」を確保していく。また、適宜、情報発信することで風評被害の防止に取り組んでいく。			
						H29	H30	R元	R2	R3	30品目 80検体	30品目 80検体			25品目 44検体	25品目 40検体	26品目 40検体

(3)朝食を意識した、バランスのよい食生活の普及														
⑤朝食の欠食率の減少														
⑥食事のバランスのよい割合(成人)の増加														
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
保健所 地域保 健課	母子保健食 育	<p>&lt;ママパパサロン・栄養&gt;妊婦とそのパートナーを対象に、講話やグループワークを通じた妊娠期の食生活支援を行う。</p> <p>&lt;離乳食教室、母と子のつどい、8か月児相談、2歳の歯☆ピカランド、幼児健康診査&gt; 乳幼児期の保護者を対象に、講話や栄養相談を通じた食生活支援を行う。</p>	—	①なし ②なし	「バランスのとれた食事を規則正しくとる健康的な食習慣」を定着させるため、母子保健サービスを活用し、健康づくりの意識づけをする。	○				△	3歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた朝食の割合	<p>・「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」を、電子親子手帳にて3か月ごとに配信を行い、妊娠期及び授乳期における望ましい食生活について情報発信を行った。</p> <p>・引き続き妊娠期から乳幼児期の食への関心が高まる時期に、各事業を通じてバランスの良い食事について啓発していく。</p> <p>・令和4年度は柏市民健康づくり推進員との共働による、地域の食育活動を推進する。</p> <p>・個別相談において生涯を通じた健康的な食習慣を身に付けられるよう支援を行っていく。</p>	・引き続き、各事業を通じて健康的な食習慣の啓発を推進する。	
														H29
保健所 健康増 進課	栄養改善事 業 (◇)	<p>栄養士業務連絡会(栄養改善・健康増進等の支援の推進を検討)</p> <p>健康ちば協力店登録推進(健康づくりの取り組みを実施する飲食店の登録)</p> <p>栄養関係団体育成(栄養・健康づくりを担う関係団体の育成)</p> <p>講演会の企画(食育推進研修会、給食施設従事者研修会)</p>	<p>柏市保健所管内調理師会</p> <p>柏市保健所管内集団給食研究会</p> <p>柏市医師会</p>	①なし ②なし	関係課、関係団体との連携により食事のバランスのよい割合が増加	△	△	△	△	△	研修会実施回数	<p>感染症拡大防止のため、例年実施している研修会(4回)のいずれも中止となった。</p> <p>栄養士業務連絡会では、市内各部署に所属する栄養士を対象に、オンライン形式で連絡会を実施した。重点取り組みや、コロナ禍における業務内容、学校給食将来構想について情報共有を行った。</p> <p>令和4年度は、各部署との情報交換の他、災害時における栄養・食支援体制づくりを課題とし、実践の具体化を行えるよう、会議及び研修会を実施予定。</p> <p>また、今年度は給食施設従事者を対象にWebを活用した研修会を実施予定。新しい生活様式に即した研修会方法や内容の検討を行い、市民への周知啓発を積極的に行いたい。</p>	<p>研修会の実施や関係部署、関係団体との連携を強化することで、全ての年代の方へ啓発を行えるように進める。</p> <p>自己研鑽を積むことで、市民への周知啓発内容を充実させていく。</p>	
														H29

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性							
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期										
こども部 保育運営課	クッキング保 育	保育園の園児が、栽培 から収穫の過程を経験 することで、食物への関 心を高める。 園児が栽培した作物と同じ野菜を利用して、5歳児 がクッキングを行い、食 べる。	各公立保育園 の保育士、調理 員と保育運営課 栄養士との連携	①なし ②なし	自分たちで育て たものを、友達 と一緒に調理 し、食べる喜び を味わうことで、 食に関心を持 つ。	○						クッキング保育実施園数									
						H29	H30	R元	R2	R3	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児全 員参加)	22園 (5歳児 クラス)	〈成果〉 ・保育士、看護師、栄養士、調理員 がそれぞれの役割を担い、多職種 が連携して実施できた。 ・園児が自分たちで野菜の栽培、収 穫を行い、その後、調理することで、 一連の流れを関連付けて取り組む ことができた。 ・野菜の栽培、調理を通して、苦手 なものも頑張っ食べようとする姿 が見られた。 〈課題〉 ・コロナ禍において、調理員と園児と の交流の場が減ったため、クッキ ング保育で交流が持てるように工夫 していく。	令和4年度の実績を 踏まえ、引き続き実 施する方向で進め る。				
学校教育 部 学校保 健課  こども部 保育運 営課  保健所 地域保 健課	子ども健康 プロジェクト	子ども健康プロジェクト の一環として、柏市の学 校給食のメニューを学校 給食クックパッドに掲載。 パソコンや携帯からも アクセスして、レシピを確 認することができ、バリ エーションに富んだ給食 メニューを家庭で作るこ とができる。	学校保健課、保 育運営課、地域 保健課の栄養 士が連携し掲載	①なし ②なし	簡単でバリエー ションに富んだ 人気のある給食 メニューを周知 することで、調 理をする意欲を 高める。	○	○	○	○	○		【学校給食】年間レシピの閲覧数(年度)と月 平均閲覧数						(保育運営課) 〈成果〉 ・令和3年度から、柏市ホームペー ジ内の、子育てサイトにおいて、柏市立保 育園の給食ページを設け、給食献立や人 気レシピの掲載を開始した。 ・レシピが欲しいとの要望に対し、手 軽に閲覧できる方法となっている。 〈課題〉 ・給食献立については、定期的な更新 ができるように、スケジュールを立てる。  (学校保健課) 〈成果〉 ・令和3年度は給食で人気のある献立 を家庭で作りやすい分量にして定期 的に掲載した。 〈課題〉 ・令和4年度は今までに掲載した献立 を整理し、幅広い料理内容が掲載さ れるようにする。	掲載を継続する方向 で進める。(保育運 営課・学校保健課)		
						年間閲覧 数 231,996件	年間閲覧 数 285,870件	年間閲覧 数 267,137件	年間閲覧 数 296,146件	年間閲覧 数 187,567件	月平均 17,052件	※ただし、 令和3年2 月26日~3 月25日ま では未集 計	H29	H30	R元	R2	R3				
						月平均 19,333件	月平均 23,823件	月平均 22,261件	月平均 24,679件												
						【保育運営課】年間レシピの閲覧数					H29	H30	R元	R2	R3						

2. 身体活動・運動

(1)運動習慣の定着													
①運動習慣者の割合の増加													
②20～59歳のほとんど運動していない人の割合の減少													
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期			
市民生活部 スポーツ課	各種スポーツ教室の開催	<JR野球教室> 市内中学校23校の中学2年生を対象に、JR東日本野球部の選手達をコーチに招き開催 <バスケットボール教室> 市内ミニバスケットボールチームに所属している小学生を対象にJX-ENEOSサンフラワーズの選手をコーチに招き開催 <ティーボール教室> 実施希望のあった市内小学校を対象にYBC柏の選手をコーチに招き開催 <ランニングクリニック> 市内在住・在勤・在学の方を対象に積水化学女子陸上競技部の選手をコーチに招き開催	YBC柏	①JR東日本野球部 ①JX-ENEOSサンフラワーズ ①積水化学女子陸上競技部 ①千葉ロッテマリーンズ ②なし	市のスポーツを活かしたまちづくりの推進  参加者の技術向上やホームタウンチームである柏市への愛着を深めること	○	○	○	○	○	各スポーツ教室参加者合計 H29 H30 R元 R2 R3 437人 480人 398人 - R3  ※ランニングクリニックはスポーツ課が実施 ※積水化学ランニングクリニック中止 ※ティーボール教室のみ実施(2校) ティーボール教室のみ実施(9校)	令和3年度は、コロナ禍でのスポーツ推進を目標に、感染症対策を施しつつ、ティーボール教室を実施。令和4年度については、ホームタウン事業の管轄が、共生・交流センターに移管となったが、今後も交流を続けていく。	引き続きホームタウンチームと連携し、幅広い年齢層を対象に各種スポーツ教室を開催することで、市民が柏市への愛着を深めるとともに、スポーツへの関心や参加機会を増進し、スポーツを活かしたまちづくりを推進する。
保健福祉部 福祉政策課 地域包括支援課	柏フレイル予防プロジェクト2025(*)	「フレイル(虚弱)」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体・学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な運動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進	医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京大学、ふるさと協議会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、スポーツ推進委員、東葛北部栄養士会、リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど	①第一生命、介護事業者、イオン、JR東日本、日立、フィットネス振興会、ダンロップスポーツウエルネス、吉田記念テニス研修センター、スマートフィット100 ②ジェクサー・ジムフラット	市民の意識・行動変容(栄養、身体活動、社会参加の促進)	○	○	○			推進委員会実施回数 H29 H30 R元 R2 R3 3回 2回 1回 2回 2回	かしわフレイル予防ポイント制度へフィットネス振興会などの民間事業者が参加、連携することで、運動・スポーツを中心に活動の増加が見取れた。そのほかにも、ラジオ体操などのコロナ禍でも可能な活動が広がるとともに、感染対策を実施し、令和2年度に比べて本格的な活動の再開が進んだ。フレイル予防の啓発としては、柏レイソルやラコルタ柏などでの各種イベントに参加してポイント制度のカード発行を行い、柏駅でのPRを継続実施。特に、ワクチン接種会場でカード発行を行うことにより、累計の発行数は一定の目標を達成した。令和4年度は、スポーツジム以外にもポイント制度対象の事業を拡大する一方で、カード発行した市民が楽しみながら健康づくりに取り組むための環境整備を目標とする。	フレイル予防によるまちづくりの実現のため、フレイル予防につながる多様な活動・場の増加を目指す。そのために、かしわフレイル予防ポイントの対象事業の拡大と、地域における市民主体の活動の促進を図り、フレイル予防の普及・啓発に努める。

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健福祉部 地域包括支援課	フレイル予防事業 (◇)	主に高齢者に対するフレイル(介護)予防事業のうち、身体活動をテーマとしたプログラムについて、リハビリテーション専門職、運動トレーナー等が講座を開催する。	柏市在宅リハビリテーション連絡会、柏市社会福祉協議会、柏市地域包括支援センターなど	①なし ②なし	市民の意識・行動変容(身体活動の促進)							フレイル予防講座(運動)の参加者数	令和3年度は、フレイルチェックや、後期高齢者の質問票で、フレイル傾向がある方に対し、個別の支援を行う事業を実施した。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みの中で、後期高齢者の健康診査受診者のフレイルと疾病の関係性等分析を行った。令和4年度は、フレイルチェックによるフレイル傾向がある方に対する個別支援の継続実施とあわせて、光ヶ丘をモデル地域とし、フレイルチェックの実施や後期高齢者の質問票を活用し、地域サロン団体に対して積極的なフレイル予防を進めていく。					
												H29			H30	R元	R2	R3
						介護予防センター主催の教室						6,387人			5,798人	6,306人	3,634人	3,399人
						フレイル予防出前講座						868人			1,509人	1,274人	26人	355人
						地域包括支援センター主催の教室						336人			1,131人	983人	481人	1,070人
						フレイルハイリスク者への個別支援						-			-	-	22人	12人
保健所健康増進課	ウォーキング推進事業	身近な運動である「歩くこと」が好きな市民が増え、主体的・積極的な健康づくりが進められるよう、ウォーキングパスポートの活用促進を展開する。市民が歩きやすい環境をつくるために、ウォーキングマップの活用促進を展開する。	市民ウォーキング団体 千葉県ウォーキング協会 我孫子市	①UDCK ②なし	・歩くことが好きな市民が増える  ・市民が運動を始めるきっかけとなる	△	○	○	○	○	○	ウォーキングパスポート発行数	ウォーキングパスポートについては、市民の申請者数は増加したが、若い世代の利用率が低いことが課題となっている。令和4年度は、若い世代を含めた幅広い世代が歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールを検討し具体化に向けた取り組みを進めていく。ウォーキングマップについては、北部エリアのマップを作成し、近隣センターや市内商業施設等に約6000部配布した。UDCK主体の健康まちづくり部会では、令和2年度に設置したウォーカブルサインの評価、健康に関するアプリの実施・評価を行った。令和4年度以降も市の立場でまちづくりの観点からも健康推進を行う。	日常的な身体活動量の増加に向けて、「歩数」を意識するような働きかけ、環境整備を行う。若い世代を含めた幅広い世代に、歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールの具体化に向けた取り組みを進める。				
												H29			H30	R元	R2	R3
												2,289冊			2,036冊	2,323冊	2,256冊	2,139冊
						ウォーキングパスポート申請数回						52人			48人	71	72	150

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性															
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																		
保健所 地域保健課	地域ウォーキング	<p>&lt;地域ウォーキング&gt; 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る</p> <p>柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座</p>	<p>庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員</p> <p>各種団体及び企業関係</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>・市民が運動を始めるきっかけとなる</p> <p>・市民の運動時間が増える</p>							<p>実施状況</p> <p>H29 H30 R元 R2 R3</p> <p>地域ウォーキング実施回数</p> <p>12回 12回 11回 中止 中止</p> <p>地域ウォーキング参加者数</p> <p>151人 153人 177人 中止 中止</p> <p>地域健康(ウォーキング以外)講座実施回数</p> <p>31回 11回 9回 中止 2回</p> <p>地域健康講座参加者数</p> <p>593人 461人 332人 中止 46人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で関係機関と連携のうえ、市民を対象とした地域健康講座を実施することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施している。令和4年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。</p>	<p>令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。</p>															
						保健所 地域保健課	啓発事業 (◇)	<p>地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員</p> <p>各種団体及び企業関係</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。</p>								<p>依頼の健康教育実施者数(全数)</p> <p>H29 H30 R元 R2 R3</p> <p>2,169人 758人 651人 中止 37人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。</p>	<p>年間計画に基づいた啓発を実施する。</p>								
												保健所 健康増進課			健康づくり普及啓発事業 (◇)	<p>イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 各種団体及び企業関係</p>	<p>①モラージュ柏 第一生命 ②なし</p>	<p>幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。</p>								<p>啓発実施者数(全数)</p> <p>H29 H30 R元 R2 R3</p> <p>1,872人 2,657人 4,973人 2,833人 3,882人</p> <p>啓発実施者数(身体活動・運動)</p> <p>1,315人 717人 1,035人 373人 46人</p> <p>依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)</p> <p>- 95人 38人 中止 中止</p> <p>※H30年度～健康増進課として計上</p>	<p>図書館及びかしわインフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。</p>	<p>効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。</p>

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
保健所 健康増進課	地域・職域 連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに取組む事業所(3社) ②なし	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数	令和3年度は協議会をWEBにて開催をし、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また、事業所へのメール配信については、対面での事業展開が難しい中、定期的に健康に関する情報を配信し、従業員のかたの健康づくりに活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また講習会についても、関係機関との共催での開催を考えており、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見直し、事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。			
						H29	H30	R元	R2	R3	36社	47社			60社	62社	61社
						講習会参加事業所数					29社	52社			43社	中止	中止
市民生活部 スポーツ課	スポーツ施設予約システム	利用者の利便性を図る。	-	①なし ②スポーツ施設指定管理者(協栄・アシックスグループ)	スポーツ施設利用者数の増加							スポーツ施設利用者数	スポーツ施設予約システムの利用方法の周知、スポーツ大会等の情報提供を行い、利用者の利便性を図った。	引き続き、利用者に利用方法の周知を行いながら、システム運用していく。			
						H29	H30	R元	R2	R3	885,602人	954,675人			855,625人	510,012人	775,033人
市民生活部 スポーツ課	学校体育施設開放	市民の地域におけるスポーツ活動の振興を図る。	市内各小中学校	①なし ②なし	利用者数の増加							学校体育施設利用者数	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症に起因したまん延防止措置等により、利用者の延べ数が大幅に減少している。令和4年度については、市民の健康維持を踏まえ、対策の徹底を促しながら可能な限り利用出来る環境を整えていく。	施設利用の状況としては、ほぼ空きがない程度まで利用団体登録が進んでおり、新規利用が難しい状況となっている。引き続き、多くの方に利用していただける事業として進めていく。			
						H29	H30	R元	R2	R3	319,042人	256,531人			218,479人	142,689人	146,339人
市民生活部 スポーツ課	スポーツ推進委員活動	地域スポーツの推進役として、日ごろスポーツをしない人への動機づけなどを行い、スポーツ実施率の向上を図る。	柏市スポーツ推進委員協議会	①なし ②なし	参加者増加とスポーツ実施率の向上							スポーツ推進委員活動参加者数	令和3年度の柏市スポーツ推進委員協議会の対外的な活動は、コロナ禍にあり年度を通して自粛した。令和4年度においては、コロナ禍での運動不足を念頭に活動再開を4月から行っている。	アフターコロナと、コロナ禍における運動不足を見据えて、地域スポーツの推進に一層取り組むとともに、幅広く参加者を募る工夫に取り組む。			
						H29	H30	R元	R2	R3	2,944人	3,122人			3,303人	中止	中止

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和4年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性																
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																			
市民生活部 スポーツ課	総合型地域 スポーツクラ ブの育成	クラブが活動する拠点の 確保や運営のためのス タッフの確保、クラブを 知ってもらうための広報 活動を支援する。	市内総合型地 域スポーツクラ ブ	①なし ②なし	市内クラブの 会員数の増加							市内クラブ会員数					令和3年度も令和2年度に新設され た総合型地域スポーツクラブに補 助金を交付し、設立後の支援を行っ た。既存のクラブ及び新設クラブと もに、自律性の高い運営が求めら れる。	市内クラブの会員数の 増加を支援する												
												H29	H30	R元	R2	R3														
												1,134人	1,221人	1,319人	1,227人	1,280人														
市民生活部 スポーツ課	スポーツ教室・講習会	スポーツへの参加を促 進するため、市主催の事 業の他体育協会や指定 管理者によるスポーツ教室 を開催する。	柏市スポーツ協 会 柏市スポーツ推 進委員協議会 柏市スポーツ施 設指定管理者	①なし ②なし	参加者の増加							スポーツ教室・講習会参加者数					平成28年度から市民参加体験型 のスポーツイベントを開催し、ス ポーツを「する」きっかけづくりの場 を提供している。指定管理者による 自主事業では、「柏市スポーツ施設 情報誌」やホームページ、広報など の媒体を使い周知を図っている。	市民がスポーツに親し むことができるよう、よ り多くの機会を提供し ていく。												
																H29			H30	R元	R2	R3								
																			5,633人	4,388人	6,299人	1,580人	4,920人							
												※R3:トップスリート+スポーツドリームかしわ inTTC																		
市民生活部 スポーツ課	補助金の 交付	スポーツ団体に対し補助 金を交付することで、ス ポーツ事業の充実を図 る。	柏市スポーツ協 会 柏市女性ス ポーツ協会 スポーツ少年団	①なし ②なし	交付団体の 市民大会などの 参加者の増加							交付団体の市民大会などの参加者数					補助金の交付により、市民大会等 の事業が開催され、交付団体の事 業の充実が図られている。令和3年 度についても、新型コロナウイルス 感染症の影響により中止となった大 会が多く、参加者数についても大幅 に減少している。	引き続き補助金を交付 し、スポーツ事業の充 実を図っていく。												
																H29			H30	R元	R2	R3								
																			51,109人	42,284人	41,514人	14,016人	26,827人							
												※柏市スポーツ協会市民大会参加者数+女性ス ポーツ協会大会等参加者数+少年団(運動会・体 カテスト・卒団式)																		
市民生活部 スポーツ課	新春マラソン 大会	市民を対象としたマラ ソン大会を開催する。	柏市スポーツ協 会 柏市スポーツ推 進委員協議会 他	①なし ②なし	参加者の増加							新春マラソン大会参加者数					平成29年度より、市外からの参加 も可能とし、幅広い参加者の増員を 図っている。 令和3年度については中止、令和4 年度の実施に向け大会の充実に向 けた工夫をし、子どもや親子の参加 を中心に参加者の増加を図りたい。	子どもや親子の参加を 促す広報活動を強化し ていく。												
																						H29	H30	R元	R2	R3				
																			1,892人	1,630人	1,732人	中止	中止							
市民生活部 スポーツ課	手賀沼エコ マラソン大会	市民の健康増進と街の 活性化、及び手賀沼の 浄化啓発を図る。	柏市スポーツ協 会 柏市スポーツ推 進委員協議会 他	①なし ②なし	参加者の増加							手賀沼エコマラソン大会参加者数					令和3年度は、新型コロナウイルス 感染拡大の影響で中止となったが、 令和4年度大会開催に向けて啓発 活動を実施した。	全国的でマラソン大会 が増加しており、参加 者の確保が課題、参 加者の獲得に向けて 今まで以上に工夫が 必要であるため、実行 委員会で検討してい く。												
																										H29	H30	R元	R2	R3
																			6,012人	9,080人	9,027人	中止	中止							

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期									
学校教育 部 指導課	学校体育の 促進関連事 業	①「新体力テスト」の実施 市内小中学校児童生徒・ 握力等計8項目  ②「小学校体育授業サ ポート事業」 小学校10校・特別支援学 校を中心とした体育の授 業支援  ③「運動部活動指導者派 遣事業」 中学校運動部活動・専門 的な指導ができる運動 部活動指導者の派遣	千葉県小中学 校体育連盟柏 支部	①オックスフィット ネス、セントラ ルスポーツ、各 校で選出した部 活動指導者、契 約課により契約 されたサポート 事業担当者 ②なし	①児童生徒の 体力向上  ②支援を必要と する児童の運動 への意欲・技能 の向上  ③運動部活動 に加入している 生徒の意欲・技 能の向上						○	△	①全国平均を上回る項目					体力向上に関する事業について は、千葉県小中学校体育連盟柏支 部と連携し、体づくり運動をテーマ に研究を行った。体力水準と日常の 運動習慣の相関関係が高いため、 主体的に日常生活で運動を実践す る力を高めることを目的に体育サ ポート事業や研究事業を同テーマ に基づいて実施した。部活動指導 者の配置に関しては、新型コロナウ イルスの関係で例年より実施回数 が減少した。	令和3年度から3年間 の計画で体づくり運動 を軸に研究や事業を展 開しているため、体力 向上の推移を検証しな がら、事業を継続する 予定である。	
													H29	H30	R元	R2	R3			
													38.1%	40.9%	33.3%	中止	11.1%			
													②年間210時間の授業支援・ 実施校の満足度							
100%	—	—	—	—	③中学校運動部活動指導者派遣数															
各校 3～5人 計87人	各校 3～5人 計84人	各校 0～5人 計85人	各校 0～5人 計79人	各校 0～8人 計77人	※令和3と比較した全国平均はR元のもの															
市民生 活部 保険年 金課	保健事業利 用費助成事 業 (運動事業)	18歳以上の柏市国保被 保険者と後期高齢者医 療保険被保険者に対し、 申請に基づき保健事業 利用券を年間8枚交付(1 枚1,000円相当)。18歳 から38歳までの健康診 査事業、はり等施術事 業、お口のクリーニング 事業、運動事業に利用 できる。 運動事業は、運動習慣 の獲得及び継続を支援 するため、市の指定を受 けた運動施設で入会時 にかかる費用や運動指 導・運動教室の利用費用 を助成する。	柏市フィットネス 振興会 スポーツ課	①「運動事業」 指定施設 「運動教室」指 定施設 ②なし	被保険者の健 康の保持増進									運動事業利用者数					平成29年度から保健事業利用助成 事業のメニューに、運動習慣の獲 得及び継続を支援し、健康の保持 増進を図ることを目的に運動事業を 追加している。 保健事業利用券申請者に対する運 動事業の利用者の割合は、令和2 年度は、新型コロナウイルス感染症 の影響により利用者数は減少した が、令和3年度は新型コロナウイルス 感染症の感染拡大前の令和元年 度に次ぐ利用者数まで改善してい る。  ●令和4年度の取り組み 今後も継続し、特定健康診査等で、 生活習慣の改善を要し、運動習慣 の獲得等が望ましい方に対し、保健 事業利用助成事業の利用案内を実 施していく。	被保険者の健康の保 持増進を図るため、事 業を継続実施してい く。
														H29	H30	R元	R2	R3		
														421人	560人	664人	481人	605人		
														令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年度に次ぐ利用者数まで改善している。						

(2)身体活動・運動に取り組みやすい環境づくり																		
③1日の歩行時間の増加																		
④地域活動やボランティア活動への参加意識向上																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 地域保健課	啓発事業 (◇)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を再開することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和4年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発を実施し、地域における健康づくりを推進する。				
						H29	H30	R元	R2	R3	3,979人	3,705人			3,014人	中止	66人	
						啓発実施者数(身体活動・運動)						2,737人			3,705人	2,874人	中止	66人
保健所 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①第一生命 モラージュ柏 タカラッシュ 花王	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで健康に関する気づきの場を作る。				○	○	○	啓発実施者数(全数)	図書館及びかしわインフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。				
						H29	H30	R元	R2	R3	1,872人	2,657人			4,973人	2,833人	3,882人	
						啓発実施者数(身体活動・運動)						1,315人			717人	1,035人	373人	46人
						依頼の健康教育参加者数(保健師)						-			95人	38人	中止	中止
						※H30年度～健康増進課として計上												

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
保健所健康増進課	ウォーキング推進事業 (*)	身近な運動である「歩くこと」が好きな市民が増え、主体的・積極的な健康づくりが進められるよう、ウォーキングパスポートの活用促進を展開する。市民が歩きやすい環境をつくるために、ウォーキングマップの活用促進を展開する。	市民ウォーキング団体 千葉県ウォーキング協会 我孫子市	①UDCK ②なし	・歩くことが好きな市民が増える  ・市民が運動を始めるきっかけとなる	△	○	○	○	○	○	ウォーキングパスポート発行数	ウォーキングパスポートについては、市民の申請者数は増加したが、若い世代の利用率が低いことが課題となっている。令和4年度は、若い世代を含めた幅広い世代が歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールを検討し具体化に向けた取り組みを進めていく。ウォーキングマップについては、北部エリアのマップを作成し、近隣センターや市内商業施設等に約6000部配布した。UDCK主体の健康まちづくり部会では、令和2年度に設置したウォーカブルサインの評価、健康に関するアプリの実施・評価を行った。令和4年度以降も市の立場でまちづくりの観点からも健康推進を行う。	日常的な身体活動量の増加に向けて、「歩数」を意識するような働きかけ、環境整備を行う。若い世代を含めた幅広い世代に、歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールの具体化に向けた取り組みを進める。
												H29		
保健所健康増進課	ウォーキング推進事業 (*)	身近な運動である「歩くこと」が好きな市民が増え、主体的・積極的な健康づくりが進められるよう、ウォーキングパスポートの活用促進を展開する。市民が歩きやすい環境をつくるために、ウォーキングマップの活用促進を展開する。	市民ウォーキング団体 千葉県ウォーキング協会 我孫子市	①UDCK ②なし	・歩くことが好きな市民が増える  ・市民が運動を始めるきっかけとなる	△	○	○	○	○	○	ウォーキングパスポート申請数回	ウォーキングパスポートについては、市民の申請者数は増加したが、若い世代の利用率が低いことが課題となっている。令和4年度は、若い世代を含めた幅広い世代が歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールを検討し具体化に向けた取り組みを進めていく。ウォーキングマップについては、北部エリアのマップを作成し、近隣センターや市内商業施設等に約6000部配布した。UDCK主体の健康まちづくり部会では、令和2年度に設置したウォーカブルサインの評価、健康に関するアプリの実施・評価を行った。令和4年度以降も市の立場でまちづくりの観点からも健康推進を行う。	日常的な身体活動量の増加に向けて、「歩数」を意識するような働きかけ、環境整備を行う。若い世代を含めた幅広い世代に、歩くことへの興味関心をもってもらえるようなツールの具体化に向けた取り組みを進める。
												52人		
保健所地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる  ・市民の運動時間が増える							実施状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で関係機関と連携のうえ、市民を対象とした地域健康講座を実施することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施している。令和4年度は市民参加型の活動を全面的に再開予定。	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。
												H29		
保健所地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる  ・市民の運動時間が増える							地域ウォーキング実施回数	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。	
												12回		12回
保健所地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる  ・市民の運動時間が増える							地域ウォーキング参加者数	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。	
												151人		153人
保健所地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる  ・市民の運動時間が増える							地域健康講座実施回数	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。	
												31回		11回
保健所地域保健課	啓発事業 (*)	＜地域ウォーキング＞ 柏市民健康づくり推進員が主催し、各地域で住民同士の仲間づくりとウォーキングをはじめのきっかけづくりを図る  柏市民健康づくり推進員が主催するウォーキング以外の運動講座	柏市民健康づくり推進員	①なし ②なし	・市民が運動を始めるきっかけとなる  ・市民の運動時間が増える							地域健康講座参加者数	令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発、地域ウォーキングを実施し、地域における健康づくりを推進する。	
												593人		461人
市民生活部スポーツ課	スポーツ推進委員活動 (*)	地域スポーツの推進役として、日ごろスポーツをしない人への動機づけなどを行い、スポーツ実施率の向上を図る。	柏市スポーツ推進委員協議会	①なし ②なし	参加者増加と、スポーツ実施率の向上	○	○	○	○	○	○	スポーツ推進委員活動参加者数	令和3年度の柏市スポーツ推進委員協議会の対外的な活動は、コロナ禍における運動不足を見据えて、地域スポーツの推進に一層取り組むとともに、幅広く参加者を募る工夫に取り組む。	
												H29		H30
市民生活部スポーツ課	スポーツ推進委員活動 (*)	地域スポーツの推進役として、日ごろスポーツをしない人への動機づけなどを行い、スポーツ実施率の向上を図る。	柏市スポーツ推進委員協議会	①なし ②なし	参加者増加と、スポーツ実施率の向上	○	○	○	○	○	○	令和3年度の柏市スポーツ推進委員協議会の対外的な活動は、コロナ禍における運動不足を見据えて、地域スポーツの推進に一層取り組むとともに、幅広く参加者を募る工夫に取り組む。		
												令和4年度においては、コロナ禍での運動不足を念頭に活動再開を4月から行っている。		

3. 休養・こころの健康

(1)睡眠等による十分な休養の確保																		
①睡眠による休養を十分にとれていない人の割合の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3		
保健所 保健予防課	こころの病気の啓発・普及活動	〈出前講座〉 こころの健康について講座形式で、正しい知識の普及啓発を行う。  〈市民講座〉 講演会により、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発を行う。	—	①たんぼぼセンター（精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業） ②なし	より多くの市民が、こころの健康や精神疾患に関する理解を深め、正しい知識を学ぶことができる。							出前講座参加者数					新型コロナウイルス感染症の影響で対面の講座が減少した。対策として、市ホームページを一部改訂し、メンタルヘルスの普及啓発を実施した。 令和4年度は、引き続きホームページの改訂を行う。講座は、リモート開催や動画配信を取り入れ、幅広い市民への普及啓発を行っていく。 また、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として、民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム推進事業の中で、啓発の取り組みを充実していく。
												H29	H30	R元	R2	R3		
												延629人	延777人	延652人	延178人	延30		
												市民講座参加者数						
												H29	H30	R元	R2	R3		
												87人	53人	68人	中止	中止		
(2)上手なストレス解消																		
②ストレスを感じた人の割合の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3		
保健福祉部 福祉政策課  地域包括支援課	柏フレイル予防プロジェクト2025（*）	「フレイル（虚弱）」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体、学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な連動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進	医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京大学、ふるさと協議会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進委員、スポーツ推進委員、東葛北部栄養士会、リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど	①第一生命、介護事業者、イオン、JR東日本、日立、フィットネス振興会、ダンロップスポーツウエルネス、吉田記念テニス研修センター、スマートフィット100 ②ジェックス・ジムフラット	市民の意識・行動変容（栄養、身体活動、社会参加の促進）							推進委員会実施回数					かしわフレイル予防ポイント制度へフィットネス振興会などの民間事業者が参加、連携することで、運動・スポーツを中心に活動の増加が見て取れた。そのほかにも、ラジ体操などのコロナ禍でも可能な活動が広がるとともに、感染対策を実施し、令和2年度に比べて本格的な活動の再開が進んだ。 フレイル予防の啓発としては、柏レインソルやラコルタ柏などでの各種イベントに参加してポイント制度のカード発行を行い、柏駅でのPRを継続実施。特に、ワクチン接種会場でカード発行を行うことにより、累計の発行数は一定の目標を達成した。 令和4年度は、スポーツジム以外にもポイント制度対象の事業を拡大することで、カード発行した市民が楽しみながら健康づくりに取り組むための環境整備を目標とする。	フレイル予防によるまちづくりの実現のため、フレイル予防につながる多様な活動・場の増加を目指す。 そのために、かしわフレイル予防ポイントの対象事業の拡大と、地域における市民主体の活動の促進を図り、フレイル予防の普及・啓発に努める。
												H29	H30	R元	R2	R3		
												3回	2回	1回	2回	2回		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3							
保健所 保健予防課	こころの病気の啓発・普及活動 (*)	<p>&lt;出前講座&gt; こころの健康について講座形式で、正しい知識の普及啓発を行う。</p> <p>&lt;市民講座&gt; 講演会により、精神疾患に関する正しい知識の普及啓発を行う。</p>	—	<p>①たんぼぼセンター（精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業）</p> <p>②なし</p>	より多くの市民が、こころの健康や精神疾患に関する正しい知識を学ぶことができる。							出前講座参加者数					<p>新型コロナウイルス感染症の影響で対面の講座が減少した。対策として、市ホームページを一部改訂し、メンタルヘルスの普及啓発を実施した。</p> <p>令和4年度は、引き続きホームページの改訂を行う。講座は、リモート開催や動画配信を取り入れ、幅広い市民への普及啓発を行っていく。</p> <p>また、精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業として、民間事業所と協働した普及啓発を行っていく。</p>	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム推進事業の中で、啓発の取り組みを充実していく。					
												H29	H30	R元	R2	R3			延629人	延777人	延652人	延178人	延30
												市民講座参加者数											
												87人	53人	68人	中止	中止							
保健所 保健予防課	本人・家族の相談・訪問支援等 (*)	<こころの健康相談> 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。	—	①なし ②なし	精神的な問題を抱えた本人や家族を支援し、生活の質の向上を目指す。							精神科医による相談数(回数)					<p>精神科嘱託医や職員によるこころの健康相談を実施し、本人や家族の相談に応じた。相談内容は、受診勧奨や病気の有無、本人への対応方法が多かった。複雑多様化する相談内容について、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。</p>	継続					
												H29	H30	R元	R2	R3			55件	46件	49件	43件	45件
												職員による面談や訪問(延数)											
												1,800件	1,549件	1,774件	1,507件	1,172件			電話相談				
						8,235件	7,529件	7,827件	7,768件	8,048件													
子ども部 子育て支援課  生涯学習部 図書館  保健所 地域保健課	ブックスタート事業	1歳6か月児健康診査を受診する親子に対し、市民ボランティアが読み聞かせ体験と絵本をお渡しする。	柏市ふれあいブックスタートの会	①なし ②なし	<p>・絵本を通じ、親子のふれあいや保護者の心安らぐ時間をつくり、子どもの豊かな心を育む</p> <p>・ことばかけやふれあいにより、愛される経験、守られている経験を積み重ねることが愛着形成につながり、乳幼児の健全な成長を図る。</p>							受取者数					<p>令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染症予防のため、ボランティアの読み聞かせ等の活動を休止し、1歳6ヶ月健診の育児相談時に保健師から本を渡した。また、フォロー体制として読み聞かせの意義を伝える「ブックスタートアドバイスブックレット」を配布した。</p> <p>ボランティアが長期活動停止となっているため意欲維持が課題である。令和4年度はボランティアの読み聞かせ活動の場を展開していくとともに、令和5年度以降の定期的な活動再開に向けた準備を行う。</p>	新型コロナウイルス感染症の状況を注視しつつ、定期的なボランティア活動再開を目指す。					
												H29	H30	R元	R2	R3			3,391人	3,341人	3,284人	3,239人	3,230

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新 規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及 び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性		
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期					
こども部 子育て 支援課 こども部 保育運 営課	地域子育て 支援拠点事 業	乳幼児及びその保護者 が相互の交流を行う場 所を開設し、子育てにつ いての相談、情報の提 供、助言その他の援助を 行う事業(児童福祉法第 6条の3第6項に規定さ れる事業)	—	①なし ②なし	子育て中の親子 の孤立や子育て に対する不安の 減少。	○						○	地域子育て支援拠点事業 延利用者数 H29 H30 R元 R2 R3 116,807 123,248 122,973 80,354 98,602 人 人 人	<公立> 令和3年度は基本的な感染対策を取り ながら、予約制で実施することにより、市 民のニーズに応えることができたのではな かと思う。 令和4年度も同様に、感染症の動向に注 視しながら、予約制で実施していく。 (保育運営課)  (子育て支援課) 令和3年度は、新型コロナウイルス感染予 防のため、各施設予約制や人数制限を行 いながら実施したが、令和2年度より利用 者数は増え、外出の機会が減少している コロナ禍でも、子育て中の親子の交流等 の場所となった。 令和4年度は、感染症予防の視点を持ち ながら、実施内容の更なる充実を目指す。	<公立> 新型コロナウイルス の状況を注視しつつ、 令和5年度の方向性を 決めていく。(保育運営 課)  (子育て支援課) 新型コロナウイルス感 染症の状況に応じて、 令和5年度の方向性を 決定する。	
生涯学 習部 中央公 民館	高齢者教育 事業 いきいきセミ ナー	高齢者が健康でより充 実した豊かな人生を送る ため地域の方々と交流 を深め、互いに学ぶこと により、良好な人間関係 を築き社会的能力を高め 、めまぐるしく移り変わ る社会に順応できる能力 を養う。	—	①なし ②なし	講座で学んだこ とを、生活の中 で取り入れても らい、健康で長 生きをする。							○	講座実施状況 H29 H30 R元 R2 R3 実施回数 8回 8回 8回 4回 7回 参加者数 228人 118人 175人 1,144人 104人	高齢者の方が、地域の方々と交流を深め 互いに学ぶことにより、めまぐるしく移り 変わる社会に順応できる能力を養うことを 目的として事業実施を展開した。 次年度以降も、良好な人間関係を築き社 会的能力を高めることができるよう、講座 の充実を図る。	継続	
生涯学 習部 中央公 民館	成人教育事 業 「いきいき健 康ライフ講 座」	長寿社会の中で元気に いきいきと過ごす手立 てを学ぶ	—	①なし ②なし	怒りやストレスを 軽減する								○	いきいき健康ライフ講座参加者 H29 H30 R元 R2 R3 — 25人 14人 1,230人 —	別講座と統合のため、令和2年度にて当 事業終了	

(3)自殺予防対策																		
③自殺者数の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健福祉部 福祉総務課	自殺予防対策事業	自殺者の減少を目的として、各関係機関との情報共有の場である自殺予防対策連絡会議を開催	庁内関係部局、医師会、民生委員児童委員協議会、柏警察署、千葉大学、柏商工会議所、柏労働基準監督署、柏市社会福祉協議会等	①なし ②なし	自殺者の減少	○	○	○	○	○	○	自殺者数					平成31年3月に策定した「柏市自殺予防対策計画」に基づき対策を推進している。  【令和3年度の取り組み】 柏市自殺予防対策連絡会議(1月) ・柏市の自殺者数の状況について ・自殺者数の推移(男女比・年代別) ・柏市自殺対策計画の進捗状況(評価指標、主要事業の進捗確認、コロナ禍における庁内での課題、令和4年度に向けた取り組み) ・自殺予防対策庁内連携会議出席委員の所属団体における活動の共有  自殺予防対策庁内連絡会議(11月) ・柏市の自殺者数の推移について ・福祉政策課の自殺対策相談事業実績 ・グループディスカッション、ケースワーク ・各課における自殺対策施策の共有  【今後の課題と考察・令和4年度の取り組み】引き続き年1回の開催を継続し、庁内外の連携を強化する。	引き続き会議を開催し、庁内外の関係機関との連携・情報交換を実施することにより効果的な自殺予防対策を推進し、自殺者の減少につなげたい。
						H29	H30	R元	R2	R3								
						68人	71人	64人	68人	63人	人口10万人対率							
						16.2	16.7	14.9	15.9	14.7								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性											
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期														
保健福祉部 福祉総務課	千葉県地域自殺対策強化事業費補助金事業	普及啓発・相談事業・人材育成・遺族支援・こころの健康づくり・医療連携の各事業を柱として、一次予防(事前予防)・二次予防(危機対応)・三次予防(事後対応)の観点から対策を実施	庁内関係部局、医師会、民生委員児童委員協議会、柏警察署、千葉大学、柏商工会議所、柏労働基準監督署、柏市社会福祉協議会等	①なし ②なし	自殺者の減少	○	○	○	○	○	○	自殺者数					【令和3年度の取り組み】 新規導入した事業 ・インターネットゲートキーパー事業 →Googleで自殺に関する検索をした方に相談窓口を表示、相談につなげた。 ・居場所づくりに関するモデル事業 →自殺予防対策コーディネーターを配置し、孤立から自殺へと進まないための居場所の調査等を実施。地域の資源についてリーフレット等にまとめて発信した。 →支援者向けゲートキーパー研修開催 ・無料対面談事業 →相談者数は数年間増加傾向にある。 ・ゲートキーパー養成研修 →前年度2回から6回に拡大して開催 ・認知行動療法サポーター養成講座 →2回開催 ・自死遺族支援事業 →わかちあいの会や講演会を開催。  【今後の課題と考察・令和4年度の取り組み】 新型コロナウイルス感染拡大を受け、若年層や女性の自殺者数に増加が見られた。相談や講習へのニーズ増加傾向にあることから、悩みを持つ方も同じく増加していることが伺える。相談事業や研修について継続実施するとともに、相談窓口や居場所の周知促進を行うべく、リーフレットやカード等の作成・配架を進める。	・既存事業…継続実施。 ・新たな取り組み…インターネットゲートキーパー事業については、専門相談機関との連携強化を促進する。居場所づくりモデル事業等について調査研究を進める。							
						H29					H30	R元	R2	R3	人口10万人対率										
						68人					71人	64人	68人	63人	16.2					16.7	14.9	15.9	14.7		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
保健所 保健予防課	本人・家族の相談・訪問支援等 (*)	<こころの健康相談> 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。	—	①なし ②なし	精神的な問題を抱えた本人や家族を支援し、生活の質の向上を目指す。							精神科医による相談数(回数) H29 H30 R元 R2 R3 55件 46件 49件 43件 45件 職員による面談や訪問(延数) 1,800件 1,549件 1,774件 1,507件 1,172件 電話相談 8,235件 7,529件 7,827件 7,768件 8,048件	精神科嘱託医や職員によるこころの健康相談を実施し、本人や家族の相談に応じた。相談内容は、受診勧奨や病気の有無、本人への対応方法が多かった。複雑多様化する相談内容について、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。	継続
保健所 地域保健課	啓発事業 (*)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							依頼の健康教育実施者数(全数) H29 H30 R元 R2 R3 2,169人 758人 651人 中止 37人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。
保健所 地域保健課	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業	妊娠届出受理時、専門職が面談をして、こころの健康チェックを実施。気分の落ち込みや不安の有無を確認し、早期に支援を開始する。	庁内関係各課 産科医療機関等	①なし ②なし	妊娠や出産への不安が高い方や、うつ病の疑いのある方に対し、早期発見・早期支援ができる。							母子健康手帳交付状況 H29 H30 R元 R2 R3 3,303人 3,213人 3,257人 3,115人 2,994人 母子健康手帳交付時の専門職の面談率 73.0% 100% 100% 100% 100% 平成29年10月より、専門職による全数面接の体制を整えた	・妊娠届出受理時に専門職(保健師、助産師)による全数面接を実施。書面上では把握出来ない気分の落ち込みや不安の有無等を面談にて確認。要支援家庭を早期に把握し、必要な支援に繋がった。 ・産科医療機関や精神科医療機関と連携を図り、メンタルヘルスの問題を抱える妊産婦の支援を強化した。	・市内4か所の妊娠子育て相談センター(柏駅前、柏市役所、ウエルネス柏、沼南支所)にて、専門職(保健師、助産師)による全数面接の継続。 ・周産期におけるメンタルヘルスに関して、関係機関との連携を強化していく。
保健所 地域保健課	乳児家庭全戸訪問事業	市内の乳児がいる全家庭を訪問。生後3か月までに保健師・助産師が新生児訪問を実施し、育児支援チェックリスト・産後うつ等の早期発見のスクリーニング指標(EPDS)・赤ちゃんへの気持ち質問票(ボンディング)を用いて、育児ストレスが高いと思われる方への訪問等の継続支援を実施。	庁内関係各課 医療機関等(産科、小児科、精神科等)	①なし ②なし	育児ストレスが高いと思われる方や、医療の必要な産後うつ病の疑いのある方に対し、早期発見・早期支援ができる。							乳児家庭全戸訪問事業実施者数 H29 H30 R元 R2 R3 3,344人 3,295人 3,182人 3,271人 3,132人 乳児家庭全戸訪問事業面談率 95.7% 95.3% 96.2% 95.6% 95.4% 平成28年度より、妊産婦・新生児訪問とこころには赤ちゃん訪問を統合し、乳児家庭全戸訪問事業を開始した。平成29年4月～全数訪問としての取り組みを開始。※平成27年以前は新生児訪問として希望者のみに実施していた。	保健師、助産師による新生児訪問等において、産後うつ等こころの問題を抱える産婦を早期発見し、早期支援に繋がった。早期の訪問に向け、産後ケア等他事業との連携を強化し、出生連絡票提出方法(電子申請など)を検討する。	市民に対する全数訪問の周知や早期支援の強化継続。



所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新 規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及 び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
学校教育 部 児童生 徒課	不登校児童 生徒の支援 事業	市内の小中学校で、何らかの要因による不登校状態の児童生徒を対象に行う支援事業。本人の自立を促すとともに、学びの保障と居場所づくりを目指し、学習支援や訪問活動等を行っている。	-	①eboard ②なし	・不登校児童生徒の学習保障。 ・家庭と学校以外の居場所の確保。							きぼうの園・学習相談室入室入級者数	市内小中学生の不登校数は、ここ数年増加の一途である。きぼうの園や学習相談室は、不登校児童生徒にとって学習をしたり友達とかかわったりして、安心して過ごすことができる居場所としての機能を果たしている。また、家庭訪問事業は、引きこもりがちな児童生徒や保護者にとって、相談をしたり関わったりできる貴重な機会となっている。しかし、家庭訪問のニーズが多いため、特に市北部地区には十分な家庭訪問が行えていない現状がある。令和4年度も、周知を図り、関係機関とまだつながりを持たずにいる児童生徒や保護者とかかわっていき、社会的な自立を目指すための支援を行っていく。	田中北小学校の移転に合わせ、学習相談室を新設する。このことにより、既存の学習相談室は遠くて通うことができなかつた児童生徒にとって、通いやすい居場所としての機能を果たすことを期待している。また、市北部地区の家庭訪問のニーズにも対応していけるようにしていきたい。					
												H29			H30	R元	R2	R3	
												75人			81人	84人	99人	109人	
												教育相談件数(電話)							
												2,673件			2,785件	3,248件	1,621件	1,731件	
												教育相談件数(来室・訪問等)							
												605件			856件	1,273件	946件	780件	
						教育相談件数(家庭訪問)													
						802件	574件	589件	555件	705件									

4. 喫煙

(1)喫煙・受動喫煙が及ぼす健康影響に関する知識の普及																						
①喫煙率の減少																						
②喫煙・受動喫煙が及ぼす健康影響に関する認識をもつ成人の割合の増加																						
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期				高齢期								
保健所 健康増 進課	タバコ対策	柏ノースモツ子作戦協 議会 柏ノースモツ子作戦出 張講座 柏ノースモツ子新聞の 作成・配付 乳幼児保護者向けリー フレット作成	柏市医師会 柏歯科医師会 柏市薬剤師会 タバコ問題を考え る会・千葉 柏商工会議所 柏市私立幼稚園 協会 柏市PTA連絡協 議会 柏市民健康づくり 推進員連絡協議 会 柏市民生委員児 童委員協議会 柏市小中学校校 長会 柏市小中学校養 護教諭会 地域保健課 保育運営課 環境サービス課 学校保健課 少年補導センター	①なし ②なし	禁煙をする市民 が増える 喫煙する市民が 減る 学校の周囲で 喫煙する大人が 減る タバコの害や受 動喫煙について 正しい認識を持 つ市民の増加	○	○	○	○	○	○	出張講座実施校数	令和3年度は、新型コロナウイルス感 染症の影響により、年2回予定されて いた柏ノースモツ子作戦協議会を中止 し、資料提供のみとした。出張講座に ついては、感染症拡大の状況下におい ても学校薬剤師を中心として事業を継 続し、6校において実施した(薬物乱用 防止教室等、「ノースモツ子」を冠さない 講座を含めると59校で実施しており、 新型コロナウイルス感染症拡大前の令 和元年の実施校数63校とほぼ同水準 で推移している)。また、より多くの方 にタバコに関する知識の普及を図るた め、令和元年から出張講座の対象者 を拡大(小・中学生のみ→子どもに関わ る団体等)したことを周知するチラシを 関係団体へ配付した。 柏ノースモツ子新聞が、昨年度同様、 小学校高学年と、中学校全学年を対象 に配付した。さらに幼稚園、保育園及 び小学2年生の保護者向けに「サード ハンド・スモーク」に関するチラシの作 成・配付を継続して実施した。 令和4年度は、新型コロナウイルスの 感染状況を慎重に見極めながら、柏 ノースモツ子作戦協議会を開催し、関 係機関の相互連携及び情報共有の再 開を図っていく。 また、引き続き出張講座の実施、出張 講座拡大・サードハンド・スモークに関 するチラシの配布及び柏ノースモツ子 新聞の配布等を継続的に実施し、周知 啓発に努めていく。また、タバコを吸い 始める機会の多い高校3年生へ、タバ コの断り方に関するチラシを市独自に 作成し配布していく。	健康増進計画の目標値 達成に向け、協議会を 開催し相互連携及び情 報共有を図る。 また、利用者が増加傾 向にある新型タバコに関 するエビデンスに基づい た正しい知識の普及を 目指し啓発を強化して いく。								
						出張講座実施校数					H29	H30			R元	R2	R3	11校	12校	16校	5校	6校
						サードハンド・スモークチラシ配布数					-	8,197枚			14,214枚	14,195枚	14,195枚					
						柏ノースモツ子新聞配布数					-	-			21,016枚	22,461枚	23,846枚					

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
保健所 地域保 健課	啓発事業 (* )	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。  妊娠届出時に妊婦と家族に対して個別に周知を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり 推進員 各種団体及び企 業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							健康教育・啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。					
												H29	H30	R元	R2	R3							
												2,169人	758人	651人	中止	37人			妊娠届出時の周知				
												-	1,161人	1,096人	1,070人	984人							

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3							
保健所 健康増 進課	健康づくり 普及啓発事 業 (◇)	イベント等の中で運動、 食、タバコ等健康に関 する啓発を実施。一般 市民を対象とし、幅広 いテーマについての啓 発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企 業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場 を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館及びかしわインフォメーションセ ンターにて、展示による啓発活動を実 施した。今年度より、出前講座の受付 を再開。健康づくりに関するパンフレ ットの作成予定。	効果的な啓発実施のた めの情報収集や、方法 についての検討・実施に つなげる。					
																H29			H30	R元	R2	R3	
																1,872人			2,657人	4,973人	中止	3,882人	
																※H29年度～ 柏市民健康づくり推進員活動については別掲							
保健所 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進 協議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督 署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産 業保健センター 全国健康保険協 会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに 取り組む事業所 (3社) ②なし	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数					令和3年度は協議会をWEBにて開催 をし、各関係団体のかたと情報共有・ 交換をを実施することができた。また、 事業所へのメール配信については、対 面での事業展開が難しい中、定期的に 健康に関する情報を配信し、従業員 のかたの健康づくりに活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会 の開催を予定しており、各委員の状 況に合わせた会議参加への環境整備を 進めていく。また講習会についても、関 係機関との共催での開催を考えてお り、地域保健と職域保健が連携を図 りながら進めていく。	協議会の在り方を見直 し、事務局の一方的な 情報発信にならないよ うお互いにディスカッ ションを心掛け、働く世代の 生活習慣病予防などの 健康づくりを継続的に取 り組んでいく。					

(2) 受動喫煙の防止

③ 受動喫煙の機会を有する人の割合の減少

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
保健所 健康増 進課	タバコ対策 (◇) 受動喫煙対 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康増進法に基づく指導等及び同法の周知啓発</li> <li>柏ノースモツ子作戦協議会</li> <li>柏ノースモツ子作戦出張講座</li> <li>柏ノースモツ子新聞の作成・配付</li> <li>乳幼児保護者向けリーフレットの作成、配布</li> <li>受動喫煙防止キャンペーン</li> <li>おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー等配付事業</li> </ul>	柏市医師会 柏歯科医師会 柏市薬剤師会 タバコ問題を考える会・千葉 柏商工会議所 柏市私立幼稚園協会 柏市PTA連絡協議会 柏市民健康づくり推進員連絡協議会 柏市民生委員児童委員協議会 柏市小中学校校長会 柏市小中学校養護教諭会 地域保健課 保育運営課 環境サービス課 学校保健課 少年補導センター 千葉県	①なし ②なし	受動喫煙による健康被害の減少	○	○	○	○	○	○	禁煙分煙ありがとう店登録店 H29 H30 R元 R2 R3 65店 51店 50店 - - おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー登録店 - - - - 52店	令和3年度は、改正健康増進法(令和2年4月改正)に基づいて、引き続き、喫煙可能店の届出対応及び事業所からの問い合わせや市民からの苦情対応を実施。	法改正の趣旨に基づき、適正な運用ができていない事業所への助言や指導を継続し、受動喫煙防止を推進していく。また、法に定められた配慮義務を周知していくことで、望まない受動喫煙を減少させていく。
												世界禁煙デーには、市内の近隣センターや禁煙外来及び禁煙支援薬局を中心に禁煙を呼びかけるポスター全100枚の掲示依頼を行った。受動喫煙防止キャンペーンとしては、ティッシュ2400個を市内公立高校に配付、カイロ1800個を調理師会を通じて各飲食店組合へ配付することで周知を図った。	また、「禁煙分煙ありがとう店登録店」事業の廃止に伴い、タバコの煙が苦手な方が安心して施設を選べるよう、禁煙に取り組む飲食店等を受動喫煙対策推進施設として認証する「おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー等配付事業」を開始し、52店舗を登録した。登録した店舗及び公共施設等にステッカー等を配布した。	
												令和4年度は、市内飲食店や事業所等での受動喫煙防止の徹底及び定着を目的に引き続き事業所及び市民の問い合わせに対応していく。	また「おいでよ！カシワニ禁煙ステッカー等配付事業」の浸透を図るため登録店拡大に向けて、市内事業所へ制度周知チラシを配布していく。また改正法施行から2年が経過するため、法に規定される受動喫煙防止の周知ポスターを町会掲示板への掲出を依頼していく。	
保健所 地域保 健課	啓発事業 (* )	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。  幼児健診にて保護者に対し、個別に周知を行う。	庁内関係各課  柏市民健康づくり推進員  各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	○	○	○	○	○	○	依頼の健康教育実施者数(全数) H29 H30 R元 R2 R3 2,169人 758人 651人 中止 37人 幼児健診での周知 - 2,255人 2,049人 2,219人 1,811人	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 健康増 進課	健康づくり 普及啓発事 業 (* )	イベント、健康教育の中 で運動、食、タバコ等健 康に関する啓発を実 施。一般市民を対象と し、幅広いテーマにつ いての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企 業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場を 作る。							啓発実施者数(全数)	図書館及びかしわインフォメーションセ ンターにて、展示による啓発活動を実 施した。今年度より、出前講座の受付 を再開。健康づくりに関するパンフレ ットの作成予定。	効果的な啓発実施のた めの情報収集や、方法 についての検討・実施に つなげる。				
						H29	H30	R元	R2	R3	1,872人	2,657人			4,973人	2,833人	3,882人	
												啓発実施者数(喫煙)						
						1,450人	1,047人	2,224人	373人	752人								
												依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)						
						-	95人	38人	中止	中止	※H30年度～健康増進課として計上							
保健所 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(* )	柏地域・職域連携推進 協議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督 署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産 業保健センター 全国健康保険協 会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに 取組む事業所 (3社) ②なし	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数	令和3年度は協議会をWEBにて開催 をし、各関係団体のかたと情報共有・ 交換をを実施することができた。また、 事業所へのメール配信については、対 面での事業展開が難しい中、定期的に 健康に関する情報を配信し、従業員の かたの健康づくりに活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会 の開催を予定しており、各委員の状 況に合わせた会議参加への環境整備を 進めていく。また講習会についても、関 係機関との共催での開催を考えてお り、地域保健と職域保健が連携を図り ながら進めていく。	協議会の在り方を見直 し、事務局の一方的な 情報発信にならないよ うお互いにディスカッ ションを心掛け、働く世代の 生活習慣病予防などの 健康づくりを継続的に取 り組んでいく。				
						H29	H30	R元	R2	R3	36社	47社			60社	62社	61社	
												講習会参加事業所数						
						29社	52社	43社	中止	中止	○ ○ △							



(4)未成年者の喫煙防止																																											
⑥喫煙経験率																																											
⑦喫煙願望率																																											
⑧周囲で喫煙する大人の存在率																																											
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考 察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性																													
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																																
保健所 健康増 進課	タバコ対策 (◇)	・柏ノースモツ子作戦出 張講座実施 ・柏ノースモツ子新聞発 行 ・小中学校タバコに関 するアンケート ・乳幼児保護者向け リーフレットの作成、配 布	・柏市薬剤師会 ・タバコ問題を考 える会・千葉 ・市立小中学校 ・柏市私立幼稚園 協会 ・学校保健課 ・保育運営課 ・地域保健課	①なし ②なし	・小中学生の喫 煙経験率が減 る ・小中学生の「タ バコがかっこい いと思う」割合 が減る ・タバコの害に ついて正しく知 ることができる ・タバコの害に ついて正しく知 る大人が増える ・禁煙する大人 が増える	○	○	○	○	○	○	出張講座実施校数					令和元年から大人向けにも事業の拡 大を図った出張講座については、新型 コロナウイルス感染症の影響により申 し込みはなかった。  小中学校向けの出張講座も同様に、市 内では6校のみの実施にとどまった。 小学生へは、サードハンド・スモークの チラシ及び柏ノースモツ子新聞の配布 を継続。サードハンド・スモークチラス については地域保健課と連携し、妊娠 届出時や乳幼児健診の際の配布を行 った。  また、タバコを吸い始める機会の多い 高校3年生へ厚生労働省作成のリーフ レットを配布した。  令和4年度は、市独自に作成したタバ コの断り方に関するチラシを配布して いく。	引き続き、子どもたちの 喫煙経験率及び願望率 を下げるよう、協議会で 連携しながら事業内容 の充実を図っていく。																									
						H29					H30					R元					R2					R3																	
						11校					12校					16校					5校					6校																	
						周囲で喫煙する大人の存在率(小学6年生)													62.8%					-					-					55.6%					-				
						周囲で喫煙する大人の存在率(中学3年生)													58.1%					-					-					50.9%					-				
保健所 健康増 進課	健康づくり 普及啓発事 業 (* )	イベント、健康教育等 の中で運動、食、タバコ 等健康に関する啓発を 実施。一般市民を対象 とし、幅広いテーマにつ いての啓発を行う。	庁内関係各課  各種団体及び企 業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に関 する気づきの場を 作る。	○	○	○	○	○	○	啓発実施者数(全数)					図書館及びかしわインフォメーションセ ンターにて、展示による啓発活動を実 施した。今年度より、出前講座の受付 を再開。健康づくりに関するパンフレ ットの作成予定。	効果的な啓発実施のた めの情報収集や、方法 についての検討・実施に つなげる。																									
						H29					H30					R元					R2					R3																	
						1,872人					2,657人					4,973人					2,833人					3,882人																	
						啓発実施者数(喫煙)													1,450人					1,047人					2,224人					373人					752人				
						依頼の健康教育参加者数(保健師)													-					95人					38人					中止					中止				
※H30年度～健康増進課として計上																																											

5. 飲酒

(1)過度の飲酒が及ぼす健康影響及び適度な飲酒に関する知識の普及														
①「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」の認識率の増加														
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期			
保健所 地域保 健課	啓発事業 (*)	地域サロン等を中心とした健康教育や各イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発および地域支援を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	健康教育・啓発実施者数(全数)						新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。	
						H29	H30	R元	R2	R3				
						2,169人	758人	651人	中止	37人				
保健所 健康増 進課	健康づくり普及啓発事業 (◇)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。	啓発実施者数(全数)						図書館及びびかしわインフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。	
						H29	H30	R元	R2	R3				
						1,872人	2,657人	4,973人	2,833人	3,882人				
						啓発実施者数(飲酒)								
						800人	-	400人	129人	53人				
						依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)								
						H29	H30	R元	R2	R3				
-	95人	38人	中止	中止										
※H30年度～健康増進課として計上														

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3							
保健所 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進協 議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監 督署 柏労働基準協 会 柏商工会議所 柏市沼南商工 会 代表企業(2社) 東葛北部地域 産業保健セン ター 全国健康保険 協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに 取組む事業所 (3社) ②なし	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加							メール配信登録事業所数					令和3年度は協議会をWEBにて開 催をし、各関係団体のかたと情報共 有・交換をを実施することができた。 また、事業所へのメール配信につ いては、対面での事業展開が難しい 中、定期的に健康に関する情報を配 信し、従業員のかたの健康づくりに 活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議 会の開催を予定しており、各委員 の状況に合わせた会議参加への環境 整備を進めていく。また講習会につ いても、関係機関との共催での開催 を考えており、地域保健と職域保健 が連携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見 直し、事務局の一方 的な情報発信になら ないようお互いにデ ィスカッションを心掛 け、働く世代の生活 習慣病予防などの健 康づくりを継続的に取 り組んでいく。					
												H29	H30	R元	R2	R3			36社	47社	60社	62社	61社
												講習会参加事業所数							29社	52社	43社	中止	中止

(2)健康被害のリスクを高める飲酒習慣の防止

②毎日飲酒・多量飲酒する人の割合の減少

③妊婦の飲酒率の減少

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性						
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3								
保健所 保健予 防課	本人・家族 の相談・訪 問支援等 (◇)	〈アルコール相談〉 精神科医師や職員によ るアルコールに関する相 談。 〈アルコール家族教室〉 アルコール問題を抱える 家族を対象に、講義や ミーティングをとおして依 存症の理解を図り、家族 の健康度を高める。 〈酒害教室〉 アルコール依存者や家 族を対象に、ミーティ ングを通して、酒害や自 助グループの効果を学 び、アルコール依存から の回復を図る。 〈HAPPYプログラム〉 アルコール減酒のため のプログラムを実施し 、適正飲酒を目指す。	柏断酒新生会	①なし ②なし	より多くの市民 がアルコール依 存症や関連問 題について学習 し、依存症や家 族の回復を図 ることができる。							アルコール相談 精神科医による相談延数					精神科嘱託医や職員によるアル コール健康相談を実施し、本人や家 族の相談に応じた。相談内容は、環 診勧奨や病気の有無、本人への対 応方法が多かった。 複雑多様化する相談内容につ いて、関係機関と連携しながら、相談 支援の充実を図る。	継続						
												H29	H30	R元	R2	R3			12件	14件	15件	7件	8件	
												アルコール相談 職員による面談や訪問延数							191件	135件	112件	104件	59件	
												アルコール家族教室 参加者延数							110人	69人	78人	18人	38人	
												酒害教室参加者延数							200人	183人	167人	45人	中止	
												HAPPYプログラム(減酒プログラム) 参加者延数							27人	31人	23人	39人	21人	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 地域保 健課	妊娠届出受 理と母子健 康手帳交付 事業	妊娠届出受理時、専門 職が面談をして、飲酒状 況を確認。飲酒による健 康リスクの啓発を行い、 必要に応じ支援につない でいる。	庁内関係各課 産科医療機関 等	①なし ②なし	妊娠期から飲酒 による健康リス クの啓発を行 い、早期支援が できる。	○						母子健康手帳交付状況					・妊娠届出受理時に専門職(保健 師、助産師)による全数面接を実 施。妊娠届出時点での飲酒状況を 確認し、飲酒による妊婦および胎児 への健康リスクをリーフレット等を活 用し、説明と啓発を実施。	・市内4か所の妊娠 子育て相談センター (柏駅前、柏市役所、 ウェルネス柏、沼南 支所)にて、専門職 (保健師、助産師)に よる全数面接にて、 飲酒による健康リス クの啓発を継続。
												H29	H30	R元	R2	R3		
												3,303人	3,213人	3,257人	3,115人	2,994人		
												妊娠届出時の妊婦の飲酒率						
0.4%	0.6%	0.2%	0.5%	0.4%														

(3)未成年者の飲酒防止																							
(4)未成年者の飲酒経験率の減少																							
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果, 今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	H29	H30	R元	R2	R3							
保健所 健康増 進課	健康づくり普 及啓発事業 (◇)	イベント, 健康教育等 の中で運動, 食, タバコ等健 康に関する啓発を実施。 一般市民を対象とし, 幅 広いテーマについての啓 発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び 企業関係	①なし ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること健康に関 する気づきの場 を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館及びわかしわインフォメーション センターにて, 展示による啓発活動 を実施した。今年度より, 出前講座 の受付を再開。健康づくりに関する パンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施の ための情報収集や, 方法についての検 討・実施につなげる。					
																H29			H30	R元	R2	R3	
																			1,872人	2,657人	4,973人	2,833人	3,882人
												啓発実施者数(飲酒)											
																			800人	-	400人	129人	53人
												依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)											
																			H29	H30	R元	R2	R3
											-	95人	38人	中止	中止								
												※H30年度~健康増進課として計上											

6. 歯・口腔の健康

(1) 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及																	
① 3歳児でむし歯がない人の割合の増加																	
② 12歳児のDMF歯数の減少																	
③ 歯肉炎を有する(歯周疾患要観察者を含む)人の割合の減少																	
④ 40歳で喪失歯のない人の割合の増加																	
⑤ 進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の割合の減少																	
⑥ 60歳代における咀嚼く良好者の割合の増加																	
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
保健所 地域保 健課	子育て支援 事業 (母子のつ どい、8か月 児相談)	<p>&lt;母子のつどい&gt; 妊婦、1歳6か月児くらい までの乳幼児と保護者を 対象に、市内20地域で 実施</p> <p>&lt;8か月児相談&gt; 8か月児の乳児へ個別案 内にて実施。各専門職 がグループワークや個別 相談を行う。</p> <p>内容: 歯・口腔に関する ワンポイント啓発、歯科 相談</p>	<p>&lt;母子のつ どい&gt; 柏市民健康 づくり推進員</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>・甘味食品や飲 料を習慣化する 児の割合の減 少 ・歯みがき(仕 上みがき)の習 慣化 ・かかりつけ歯 科医を持っている 割合の増加</p>	○				△	つどい参加者数(歯科の回のみ)					<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止 のため、地域での啓発活動(「母子の つどい」)については、中止となっ た。 対応として、「駅前すこやかプチルー ム」において予約制で個別相談を実 施した。 歯科に関して心配がない方や、ママ パパで来所した夫婦の方へも啓発を 行った。 ・「8か月児相談」についても、中止の 期間はあったが再開時は感染対策 を行い実施した。8か月は歯が生え 始める時期であり、保護者の関心も 高く、中止期間の際に「駅前すこや かプチルーム」での個別相談や「個別 離乳食相談」での対応なども行った。 ・令和4年度も乳幼児期からの「家族 ぐるみのお口の健康」と「かかりつけ 歯科の推進」について啓発する。</p>	乳幼児期から、家族 ぐるみで口腔の健康 に意識が持てる様情 報提供する
											H29	H30	R元	R2	R3		
											5,473人	213人	86人	中止	中止		
											8か月児相談参加者数						
											H29	H30	R元	R2	R3		
-	2,231人	2,085人	860人	531人													
※H3より、母子のつどいの実施主体が柏市 民健康づくり推進員となり歯・口腔の健康につ いては、地域からの依頼に応じて対応。																	

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性			
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期						
保健所 地域保 健課	2歳の歯☆ ピカランド及 びフッ化物 歯面塗布事 業	<p>&lt;歯☆ピカ&gt; 2歳児の親子を対象に食 生活を含むむし歯予防 の啓発及び歯みがき指 導</p> <p>&lt;フッ化物&gt; 2.6歳対象に医療機関に てフッ化物歯面塗布によ るむし歯予防事業(無料 受診券全対象者郵送)</p>	柏歯科医師 会 柏市医師会	①なし ②なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物配合 歯みがき剤の 利用率の増加</li> <li>・かかりつけ歯 科医を持つ者の 増加</li> <li>・定期健診を受 ける者の増加</li> </ul>	○				△	3歳児健診受診状況					<p>・「2歳の歯☆ピカランド」については、 新型コロナウイルス感染拡大防止に よる中止の期間があった。再開時 は、感染対策を行い個別相談会とし て実施した。</p> <p>保護者は「口腔内観察」や「歯みがき の実演」を期待しており、今後の事業 運営方法は「かかりつけ歯科医づく り」と「定期健診の大切さ」を啓発しつ つ検討していく。</p> <p>・フッ化物歯面塗布事業については、 コロナ禍でも継続実施をしている。受 診者が指定医療機関を検索しやす い環境を整えた。令和2年度は受診 控えが見られたが、令和3年度はや や回復した。</p> <p>・令和4年度も引き続き、幼児健診、 他事業の中で「かかりつけ歯科の推 進」、「フッ化物の効果的活用」につ いて啓発を行う。</p>	引き続き切れ目のな い歯・口腔の健康づく り支援を行い情報提 供する
											H29	H30	R元	R2	R3		
											対象者数						
											3,535人	3,851人	3,743人	3,708人	3,295人		
											歯科受診者数						
											3,221人	3,453人	3,325人	3,463人	3,286人		
健歯者率																	
85.4%	86.9%	88.2%	87.2%	91.2%													

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ					実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期			
保健所 地域保健課	母子歯科保健事業「歯っぴいかむかむっ子作戦！！」	<p>&lt;地域における依頼の健康教育&gt; 子育て支援センター、地域サロンにおいて、「育児講座」として地域の乳幼児をもつ保護者を対象にむし歯予防の啓発及び歯みがき指導 &lt;幼稚園・保育園等での歯みがき指導&gt; 保育園、幼稚園の園児を対象に食生活を含むむし歯予防の啓発及び歯みがき指導 依頼に応じて、保護者へもむし歯予防の啓発を実施</p>	<p>保育運営課 公立保育園 私立保育園 私立幼稚園 柏歯科医師会</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>・歯みがき(仕上げみがき)の習慣化 ・かかりつけ歯科医を持つ者の増加 ・定期健診を受ける者の増加</p>	○					△	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、依頼の健康教育については中止となった。必要に応じ「駅前すこやかプチルーム」「電話相談」を案内し、個別相談を実施した。また、各年齢に応じた課題に対する掲示媒体や啓発チラシを作成した。 ・令和4年度は引き続き、「駅前すこやかプチルーム」において個別相談の対応を行う。また、対面での健康教育(歯みがき指導)については、今後の実施も不確定であるため各施設の指導者に対する情報提供を行い、実施ができるよう環境整備を検討する。</p>	<p>・指導者育成のための情報共有や今後の方向性について連携機関と話し合う。</p>
		<p>小学校、中学校の児童、生徒を対象に食生活を含むむし歯、歯周病予防の啓発及び歯みがき指導 依頼に応じて、保護者へもむし歯、歯周病予防の啓発を実施</p>	<p>学校保健課 小学校 中学校 柏歯科医師会</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>・給食後の歯みがき習慣の徹底 ・食後の歯みがき習慣の徹底 ・フッ化物配合歯みがき剤の利用者の増加 ・定期健診を受ける者の増加</p>	○					△	<p>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校1年生、他学年の歯みがき指導は中止となった。6月、11月の歯の健康月間に合わせて啓発リーフを作成し「フッ化物の効果的活用」「定期歯科健診の推進」について啓発した。 ・令和4年度は、高学年において歯肉炎の増加がみられるため、定期健診を促すとともに、「歯肉炎の予防」について啓発リーフを作成し配布する。また小中学校での対面による健康教育(歯みがき指導)は、今後の実施も不確定であるため各施設の指導者に対する情報提供を行い、実施ができるよう環境整備を検討する。</p>	<p>・引き続き、学校、学校歯科医、児童、生徒、保護者に対し、保健所より適切な情報発信を行い、歯・口腔の健康づくりの意識が高められるようにする ・課題に合わせ、ターゲットにむけた啓発を強化する。 ・指導者育成のための情報共有や今後の方向性について連携機関と話し合う。</p>
保健所 地域保健課	啓発事業(◇)	<p>イベント等の中で運動、食・タバコ、歯・口腔等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。</p>	○					○	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が制限される中ではあったが、一部地域で市民を対象とした地域健康講座や地域行事を再開することができた。また、推進員活動において今後の啓発事業に繋がるよう、内部研修を実施した。令和4年度は市民参集型の活動を全面的に再開予定。</p>	<p>・令和元年度以前と同様に、地域健康講座や健康教育等による啓発を実施し、地域における健康づくりを推進する。</p>

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
保健所 健康増 進課	健康づくり普 及啓発事業 (◇)	イベント、健康教育等 の中で運動、食、タバコ等健 康に関する啓発を実施。 一般市民を対象とし、幅 広いテーマについての啓 発を行う。	庁内関係各 課 各種団体及 び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフ ステージの市民を 対象にポピュ レーションア プローチをす ること、健康に 関する気づきの場を 作る。							啓発実施者数(全数)					図書館及びかしわインフォメーション センターにて、展示による啓発活動 を実施した。今年度より、出前講座の 受付を再開。健康づくりに関するパン フレットの作成予定。	効果的な啓発実施の ための情報収集や、 方法についての検 討・実施につなげる。					
												H29	H30	R元	R2	R3							
																			1,872人	2,657人	4,973人	2,833人	3,882人
																			啓発実施者数(歯・口腔の健康)				
																			350人	515人	944人	245人	551人
																			依頼の健康教育参加者数(講師:歯科衛生士)				
保健所 健康増 進課	地域・職域 連携推進事 業(*)	柏地域・職域連携推進協 議会 事業所向けの健康情報 等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準 監督署 柏労働基準 協会 柏商工会議 所 柏市沼南商 工会 代表企業(2 社) 東葛北部地 域産業保健セ ンター 全国健康保 険協会千葉 支部 柏市医師会 柏歯科医師 会	①健康づくりに 取組む事業所 (3社) ②なし	働く世代の生活 習慣病予防とこ ころの健康づく りの推進  社員の健康づく りに積極的に取 り組む事業所の 増加												令和3年度は協議会をWEBにて開 催をし、各関係団体のかたと情報共 有・交換を実施することができた。 また、事業所へのメール配信につ いては、対面での事業展開が難しい 中、定期的に健康に関する情報を配 信し、従業員のかたの健康づくりに 活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会 の開催を予定しており、各委員の状 況に合わせた会議参加への環境整 備を進めていく。また講習会につ いても、関係機関との共催での開催を考 えており、地域保健と職域保健が連 携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見 直し、事務局の一方 的な情報発信になら ないようお互いにデ ィスカッションを心掛 け、働く世代の生活 習慣病予防などの健 康づくりを継続的に取 り組んでいく。					

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性																								
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期																											
学校教育 部 学校保 健課	健康診断事 業	<p>&lt;定期歯科健診&gt; 学校医による、全校児童 生徒のう歯・歯肉・歯列 等の健診</p> <p>&lt;歯みがき指導&gt; 保健所歯科衛生士によ る全小学校1年生を対象 とした歯みがき指導(学 校保健課で日程・人数調 整)</p>	学校歯科医  保健所	①なし ②なし	12歳児のDMF 歯数の減少  歯肉炎を有する 人の割合の減 少							<p>令和3年度の定期歯科健診につ いては、感染症対策を講じた上で、通 常通り6月30日までに実施するこ とができた。歯みがき指導について は、保健所歯科衛生士による指導は 令和3年度も中止していたため実施 していないが、歯垢の染め出しを宿 題にして、磨けていなかった部分を 学校で確認する等、工夫して指導を 再開した学校もみられた。 令和3年度の12歳児のDMF歯数 はほぼ横ばいで増加はしていなかつ た。しかし、新型コロナウイルス感染 症の影響で、歯みがき指導や給食後 の歯みがきが積極的に行えないこ と、とくに小学校低学年で歯みがきの 仕方や習慣化について十分に指導 できていないことが課題である。 令和4年度も、学校での歯みがき 指導を積極的に実施することは難し いが、感染症対策を講じたうえで実 施できる方法を検討していく。</p>	<p>柏歯科医師会が策 定した学校歯科医マ ニュアルに基づき、定 期健康診断を実施す る。また、今後も感染 防止対策を講じた上 で、可能な限り歯科 保健活動が実施でき るよう、また、集団指 導にとられない保 健指導ができるよう、 学校保健関係教職員 の研修会等で広く呼 びかけていく。</p>																									
														<p>定期歯科健診状況</p> <table border="1"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R元</td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>3,244人</td> <td>3,171人</td> <td>3,219人</td> <td>3,302人</td> <td>3,402人</td> </tr> </table> <p>受診者数</p> <table border="1"> <tr> <td>0.71本</td> <td>0.89本</td> <td>0.63本</td> <td>0.69本</td> <td>0.67本</td> </tr> </table> <p>12歳児のDMF歯数</p>						H29	H30	R元	R2	R3	3,244人	3,171人	3,219人	3,302人	3,402人	0.71本	0.89本	0.63本	0.69本	0.67本				
H29	H30	R元	R2	R3																																		
3,244人	3,171人	3,219人	3,302人	3,402人																																		
0.71本	0.89本	0.63本	0.69本	0.67本																																		
保健所 健康増 進課	歯周病検診 事業	対象者(満30、40、50、60 歳)に個人通知を行い、 委託医療機関にて歯周 ポケット測定等の歯周病 検診を実施する。	柏歯科医師 会	①なし ②なし	30・40歳におけ る喪失歯のない 人の割合増加  30・40歳の進行 した歯肉炎を有 する人の割合減 少						<p>喪失歯のない人の割合(30歳)</p> <table border="1"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R元</td> <td>R2</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>80.3%</td> <td>95.3%</td> <td>95.8%</td> <td>96.0%</td> <td>95.6%</td> </tr> </table> <p>喪失歯のない人の割合(40歳)</p> <table border="1"> <tr> <td>73.2%</td> <td>91.7%</td> <td>91.3%</td> <td>91.7%</td> <td>92.0%</td> </tr> </table> <p>進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(30歳)</p> <table border="1"> <tr> <td>52.9%</td> <td>32.6%</td> <td>36.4%</td> <td>35.7%</td> <td>37.3%</td> </tr> </table> <p>進行した歯肉炎(CPI指数3以上)を有する人の 割合(40歳)</p> <table border="1"> <tr> <td>61.3%</td> <td>38.6%</td> <td>44.0%</td> <td>42.1%</td> <td>38.0%</td> </tr> </table>	H29	H30	R元	R2	R3	80.3%	95.3%	95.8%	96.0%	95.6%	73.2%	91.7%	91.3%	91.7%	92.0%	52.9%	32.6%	36.4%	35.7%	37.3%	61.3%	38.6%	44.0%	42.1%	38.0%	<p>コロナ禍において受診控えをする傾 向がある中、令和2年度に引き続き ナッジ理論を活用した受診券にした ところ、受診率をキープすることがで きた。近隣市自治体の令和元年度及 び2年度を比較するとともに減少して いたことから、ナッジ効果であったと 考えられる。当事業をきっかけに歯 科医院を受診した市民についてはそ の歯科医院をかかりつけ歯科医と し、今後も定期的に受診するよう今 後もその重要性について柏歯科医師 会と連携を図りながら、周知啓発を 実施していく。</p>	<p>歯周病検診マニ ュアルに準じた検診に+α した柏市バージョンで 実施しているが、本 事業をスクリーニング と位置づけ、国のマ ニュアルに準じた内 容で検診を簡素化し ていくことについては 柏市の歯科保健事業 全体の見直し等を踏 まえ、柏歯科医師会 と協議を重ね、決定し ていく。</p>
												H29	H30	R元	R2	R3																						
80.3%	95.3%	95.8%	96.0%	95.6%																																		
73.2%	91.7%	91.3%	91.7%	92.0%																																		
52.9%	32.6%	36.4%	35.7%	37.3%																																		
61.3%	38.6%	44.0%	42.1%	38.0%																																		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健福祉部 地域医療推進課	訪問口腔衛生指導事業 補助金	訪問調査並びに口腔ケアの指導や一般市民への啓発事業、多職種連携事業等への訪問口腔衛生指導事業に対する補助金の交付	柏歯科医師会	①なし ②なし	・在宅療養者が治療及び口腔ケアを受けることにより、口腔機能を維持し、生活の質の向上を図る。  ・市民が、在宅療養状態になっても、安心して歯科治療を受けることができる環境整備。							訪問口腔衛生指導(訪問口腔ケア)を実施した方の口腔機能向上	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	多職種連携の中で、訪問口腔衛生指導事業の推進を図る。				
												H29			H30	R元	R2	R3
												75%			80%	90%	82%	81%

(2) 定期的な歯科健康診査の受診勧奨														
⑦ 過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(成人)の増加														
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	社年期	高齢期			
保健福祉部 地域医療推進課	特殊歯科診療事業支援事業	一般的な診療が難しい障害児・者、高齢者等に診療を行う特殊歯科診療所の運営に対し補助金を交付	柏市医療公社 柏歯科医師会	①なし ②なし	一般診療が難しい方本人及び家族の負担軽減。生活の質向上	○	○	○	○	○	○	患者数 H29 H30 R元 R2 R3 4,049人 4,233人 4,080人 3,139人 3,193人	感染防止対策を徹底し、一般の歯科診療所では治療が困難な患者への歯科診療や摂食嚥下指導を実施。コロナ禍ではあるが、令和2年度より患者数はやや増加した。令和4年度も、本補助事業を継続し、必要なかが歯科診療や指導を受けられる体制確保を図っていく。	必要な方が適切な医療が受けられる体制を確保していく。
保健所健康増進課	歯周病検診事業(◇)	対象者(満30, 40, 50, 60歳)に個人通知を行い、委託医療機関にて歯周ポケット測定等の歯周病検診を実施する。	柏歯科医師会	①なし ②なし	過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合増加	△	△	○	○			過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(成人) H29 H30 R元 R2 R3 全体 31.4% 32.9% 34.3% 31.0% 29.5% 30歳 27.8% 30.2% 31.8% 25.7% 25.7% 40歳 31.0% 35.3% 37.7% 33.3% 30.6% 50歳 32.2% 35.6% 32.5% 29.1% 26.6% 60歳 36.0% 28.9% 33.9% 36.6% 37.4%	コロナ禍において受診控えをする傾向がある中、令和2年度に引き続きナッジ理論を活用した受診券にしたところ、受診率をキープすることができた。近隣市自治体の令和元年度及び2年度と比較するとどこも減少していたことから、ナッジ効果であったと考えられる。当事業をきっかけに歯科医院を受診した市民についてはその歯科医院をかかりつけ歯科医とし、今後も定期的に受診するよう今後もその重要性について柏歯科医師会と連携を図りながら、周知啓発を実施していく。	歯周病検診マニュアルに準じた検診に+αした柏市バージョンで実施しているが、本事業をスクリーニングと位置づけ、国のマニュアルに準じた内容で検診を簡素化していくことについては柏市の歯科保健事業全体の見直し等を踏まえ、柏歯科医師会と協議を重ね、決定していく。
保健所健康増進課	かしわ歯科相談室	歯・口腔の健康に関して、歯科医師・歯科衛生士が個別の相談に応じ、必要な指導及び助言を行う。	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯・口腔の健康に関する不安の軽減	○	○	○	○	○	○	かしわ歯科相談室利用者数 H29 H30 R元 R2 R3 119人 75人 60人 38人 65人	関係課で実施している乳幼児対象の事業が中止されていることに伴い、例年より乳幼児の来所者数が増加した。歯科医師による口腔内診察と助言、歯科衛生士による歯みがき指導等に役割分担をし、実施することができた。成年期以降のかたについては治療内容の相談が多く、専門的な治療内容を理解できず、どう選択すればよいのかかわからず、来所するケースが多々みられた。各歯科医院でのわかりやすい説明等が必要。	地域にある歯科医院での患者へのインフォームドコンセントについては柏歯科医師会を通して、その徹底に努めていただくよう協力を仰いでいく。

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 健康増 進課	健康かむか む運動補助 金	柏歯科医師会が主催する 地域歯科保健医療啓 発の一環。 ・各種コンクール実施、 表彰 ・口腔がん検診 ・市民向け口腔啓発企画 等への補助事業	柏歯科医師 会 教育委員会	日本大学松戸歯学 部 北原学院歯科衛生 専門学校 東葛北部歯科技工 士愛 (株)グラクソ・スミス クリン・コンシュー マー・ヘルスケア ジャパン (株)松風 (株)ビーブランド (株)ケーオーデンタル モラージュ柏 イオンモール柏 こども図書館 あさひ通り商店会 ウラカン百年会	歯や口腔の健 康づくりに関心 を持ち、主体的 に取り組む市民 が増える。	○	○	○	△	△	○	健康かむかむ運動参加者数					これまでの地域に出向き住民とふれ あいながらの啓発が難しい状況の中 で、WITHコロナを見据えた啓発活 動にシフトチェンジした活動の一環と して、歯や口の健康づくりを身近に感 じられるような内容を作成し、柏歯科 医師会の公式You Tubeを配信した。 また、ポピュレーションアプローチだ けでなく、ハイリスクアプローチとして 定時制高校への啓発活動も開始さ れた。	関係機関と連携を図 りながら、各ライフ ステージにあった媒体 を活用し、必要な情 報提供・発信を実施し ていく。
												H29	H30	R元	R2	R3		

(3) 歯・口腔の健康づくりのための環境整備

⑧ 歯や口の状態に関する満足度(成人)

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 健康増 進課	歯周病検診 事業 (◇)	対象者(満30, 40, 50, 60 歳)に個人通知を行い, 委託医療機関にて歯周 ポケット測定等の歯周病 検診を実施する。	柏歯科医師 会	①なし ②なし	歯や口の状態 に満足している 人の割合増加							口腔内の満足度についてほぼ満足している人の割合	コロナ禍において受診控えをする傾 向がある中、令和2年度に引き続き ナッジ理論を活用した受診券にした ところ、受診率をキープすることがで きた。近隣市自治体の令和元年度及 び2年度を比較するとどこも減少して いたことから、ナッジ効果であったと 考えられる。当事業をきっかけに歯 科医院を受診した市民についてはそ の歯科医院をかかりつけ歯科医と し、今後も定期的に受診するよう今 後もその重要性について柏歯科医師 会と連携を図りながら、周知啓発を 実施していく。	歯周病検診マニュアルに準じた検診に+α した柏市バージョンで 実施しているが、本 事業をスクリーニング と位置づけ、国のマ ニュアルに準じた内 容で検診を簡素化し ていくことについては 柏市の歯科保健事業 全体の見直し等を踏 まえ、柏歯科医師会 と協議を重ね、決定し ていく。				
												H29			H30	R元	R2	R3
												全体						
												31.4%			32.9%	34.3%	36.1%	37.0%
												30歳						
												27.8%			30.2%	31.8%	37.9%	36.8%
												40歳						
												31.0%			35.3%	37.7%	33.6%	34.7%
												50歳						
						32.2%	35.6%	32.5%	34.9%	37.7%								
						60歳												
						36.0%	28.9%	33.9%	38.9%	39.6%								
保健所 健康増 進課	かしわ歯科 相談室 (* )	歯・口腔の健康に関して, 歯科医師・歯科衛生士が 個別の相談に応じ、必要 な指導及び助言を行う。	柏歯科医師 会	①なし ②なし	歯・口腔の健康 に関する不安の 軽減							かしわ歯科相談室利用者数	関係課で実施している乳幼児対象の 事業が中止されていることに伴い、 例年より乳幼児の来所者数が増加し た。歯科医師による口腔内診察と助 言、歯科衛生士による歯みがき指導 等に役割分担をし、実施することが できた。 成年期以降のかたについては治療 内容の相談が多く、専門的な治療内 容を理解できず、どう選択すればよ いかわからず、来所するケースが 多くみられた。各歯科医院でのわか りやすい説明等が必要。	地域にある歯科医院 での患者へのイン フォームドコンセント については柏歯科医 師会を通して、その徹 底に努めていただくよ う協力を仰いでいく。				
												119人			75人	60人	38人	65人

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性										
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期													
保健福祉部 福祉政策課 地域包括支援課	柏フレイル 予防プロジェクト2025 (* )	「フレイル(虚弱)」という概念を新たに取り入れ、市民、関係団体、学識経験者、市による「推進委員会」を設置・運営しながら、健康づくり事業の効果的な運動と地域を基盤とした市民主体の活動を推進	医師会、歯科医師会、薬剤師会、東京大学、ふるさと協議会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、柏市民健康づくり推進員、スポーツ推進委員、東葛北部栄養士会、リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど	①第一生命、介護事業者、イオン、JR東日本、日立、フィットネス振興会、ダンロップスポーツウエルネス、吉田記念テニス研修センター、スマートフィット100 ②ジェクサー・ジムフラット	市民の意識・行動変容(栄養、身体活動、社会参加の促進)				○	○	○	推進委員会実施回数 H29 H30 R元 R2 R3 3回 2回 1回 2回 2回					かしわフレイル予防ポイント制度へフィットネス振興会などの民間事業者が参加、連携することで、運動・スポーツを中心に活動の増加が見て取れた。そのほかにも、ラジオ体操などのコロナ禍でも可能な活動が広がるとともに、感染対策を実施し、令和2年度に比べて本格的な活動の再開が進んだ。 フレイル予防の啓発としては、柏レイソルやラコルタ柏などでの各種イベントに参加してポイント制度のカード発行を行い、柏駅でのPRを継続実施。特に、ワクチン接種会場でカード発行を行うことにより、累計の発行数は一定の目標を達成した。 令和4年度は、スポーツジム以外にもポイント制度対象の事業を拡大することで、カード発行した市民が楽しみながら健康づくりに取り組むための環境整備を目標とする。	フレイル予防によるまちづくりの実現のため、フレイル予防につながる多様な活動・場の増加を目指す。 そのために、かしわフレイル予防ポイントの対象事業の拡大と、地域における市民主体の活動の促進を図り、フレイル予防の普及・啓発に努める。						
保健福祉部 地域包括支援課	フレイル予防事業 (◇)	主に高齢者に対するフレイル(介護予防)事業のうち、口腔機能や嚥下をテーマとしたプログラムについて、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士等が講座を行う。	柏歯科医師会、柏歯科介護センター、柏市在宅リハビリテーション連絡会、地域包括支援センターなど	①なし ②なし	市民の意識・行動変容(口腔機能の改善)							フレイル予防講座(口腔)の参加者数					令和3年度は、フレイルチェックや、後期高齢者の質問票で、フレイル傾向がある方に対し、個別の支援を行う事業を実施した。また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取り組みの中で、後期高齢者の健康診査受診者のフレイルと疾病の関係性等分析を行った。令和4年度は、フレイルチェックによるフレイル傾向がある方に対する個別支援の継続実施とあわせて、光ヶ丘をモデル地域とし、フレイルチェックの実施や後期高齢者の質問票を活用し、地域サロン団体に対して積極的なフレイル予防を進めていく。							
																介護予防センター主催の教室								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)					令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期	お口のクリーニング利用者数						
												H29	H30	R元	R2	R3		
市民生活部 保険年金課	保健事業利用助成事業 (お口のクリーニング事業)	18歳以上の柏市国保被保険者と後期高齢者医療保険被保険者に対し、申請に基づき保健事業利用券を年間8枚交付(1枚1,000円相当)。18歳から38歳までの健康診査事業、はり等施術事業、お口のクリーニング事業、運動事業に利用できる。 お口のクリーニング事業は、歯みがきでは落とすきれない歯の付着物の除去や歯みがき指導等の健康相談、衛生指導を実施	柏歯科医師会	①なし ②なし	歯・口腔の健康状態の改善、生活習慣病の予防							1,287人	1,459人	1,524人	1,405人	1,505人	保健事業利用助成事業のメニューの一つとして、生活習慣病の入り口となる虫歯や歯周病の予防を目的として、歯磨きでは落とすきれない茶渋やタバコのヤニ、着色、入れ歯の汚れなどを専用機器を用いて磨き落としたり、歯みがき指導を実施している。 保健事業利用助成事業の利用者は、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の令和元年度に次ぐ人数まで改善している。  ●令和4年度の取り組み 定期的に歯科医に繋げ、口腔の健康管理に活用していただくよう事業を継続する。	継続実施していく。

7. 糖尿病

(1)若い世代からの糖尿病の発症予防と重症化予防																		
①糖尿病の指摘を受けた人の割合の減少																		
②メタボリックシンドローム[内臓脂肪症候群]の該当者及び予備群該当者の割合(40歳以上)の減少																		
③ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値6.5%)以上の人の割合の減少																		
④じん臓機能障害による身体障害者手帳1級所持者数の減少																		
⑤糖尿病医療費(国民健康保険 1月あたりの総点数)の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部 業	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
市民生活部 保険年金課	柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導(◇)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏市医師会</li> <li>・ちば県民保健予防財団</li> <li>・人間ドック、脳ドック実施医療機関</li> <li>・JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ)</li> <li>・千葉県厚生農業共同組合連合会</li> <li>・沼南商工会</li> <li>・柏商工会議所</li> <li>・千葉県国保連合会</li> </ul>	①なし ②なし	生活習慣病の発症及び重症化の予防							特定健康診査受診率(法定報告)	<p>①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備群が年々増加していることに対し、特定健診の更なる実施率の向上が必要であることから、「人工知能(AI)を活用した受診率向上」の取組を令和元年度から継続し令和3年度も実施し、3回受診勧奨通知を送付。その内、27%に特定健康診査の受診を確認。</p> <p>②生活習慣病治療中断者への適正受診勧奨事業 令和3年度は、過去5年遡り糖尿病の治療中断者に対し生活習慣病重症化予防のため、医療機関受診が必要な未受診者や、治療中断者に対する受診勧奨を101人に通知し、17人の受診再開を確認。</p> <p>③糖尿病性腎症重症化予防事業 人工透析導入の抑制を目的に、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を令和3年度も継続。感染症の感染予防対策を講じ、コロナ禍前の令和元年度の内容に戻し、地域のかかりつけ医や専門医等との連携のもと、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」を実施。具体的には、柏市医師会に推薦された2医療機関に委託し、身体測定、血圧測定、血液及び尿検査、健康講座(医師、管理栄養士、理学療法士)、面接、6ヶ月後の血液及び尿検査や面接を実施。</p> <p>④プレ特定健康診査 令和3年度から、若い世代からの健診の習慣化を図ることで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげることを目的に、39歳を対象に「プレ特定健康診査」を開始。受診者数は127人。生活習慣の改善を要する方4人に対し、保健指導を実施。</p> <p>⑤特定保健指導における電子申請の開始、遠隔面談、インセンティブの実施 電子申請による特定保健指導の予約を開始している。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、遠隔面談を実施。また、積極的支援として保健指導を受け、継続した健康づくりの取り組みにより、改善が見られた方に対しインセンティブを提供した。(電子申請18人、遠隔面談21人、インセンティブの提供21人。)</p> <p>●令和4年度の取り組み 更なる効果的な受診勧奨業務とするため、ITを活用した受診勧奨通知に変更する。その他の事業については継続する。</p>	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。				
						H29	H30	R元	R2	R3	42.4%	42.5%			46.8%	42.3%	11月1日以降確定	
						特定保健指導実施率(法定報告)						23.0%			29.0%	30.0%	23.3%	同上
						メタボリックシンドローム該当者の割合(法定報告)						男性 27.4%			28.4%	29.3%	32.8%	同上
												女性 8.3%			8.9%	9.5%	10.6%	同上
						メタボリックシンドローム予備群の割合(法定報告)						男性 17.3%			18.0%	17.1%	17.1%	同上
												女性 5.8%			6.1%	6.1%	6.3%	同上
						ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値で6.5%)以上の人の割合(年度報告)						7.9%			8.1%	8.7%	9.4%	9.1%

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
市民生活部 保険年金課	国保 保健事業利用費助成事業 (18歳から38歳までの健康診査)	18歳以上の柏市国保被保険者に対し、申請に基づき保健事業利用券を年間8枚交付(1枚1,000円相当)。18歳から38歳の健診事業、はり等施術事業、お口のクリーニング事業、運動事業に利用できる。18歳から38歳までの健康診査事業は26年度からの新規事業。受診希望者に対し受診券を発行し、特定健診と同様の健診を実施する。 令和3年度から39歳を対象とした「プレ特定健康診査」が開始したことから、名称を「18歳から38歳までの健康診査」に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健康の保持増進 若い世代からの生活習慣病予防							18歳から39歳の健診実施状況	健診受診の習慣化及び生活習慣病の早期発見、早期治療による重症化の予防を目的に実施。 令和3年度は受診率の向上を図るため、受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受診券を申請されていない30歳、35歳～38歳までの方を対象に、8月に受診勧奨通知を送付した。2回目は受診券発行者のうち、受診の確認ができていない方を対象に12月に受診勧奨通知を送付している。 39歳を対象にしたプレ特定健康診査が令和3年度に開始され39歳は対象ではなくなっていることから利用者は令和2年度よりも減少している。  ●令和4年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」においては、令和4年度も引き続き、受診勧奨を行い、健診の結果、生活習慣の改善を要する方に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。									
												H29			H30	R元	R2	R3					
												受診券発行数					218人	479人	469人	593人	506人		
												受診者数					138人	291人	310人	315人	295人		
保健所健康増進課	柏市健康診査 (無保険者)	40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。 74歳以下の対象者に個別通知、75歳以上は申し込み制。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							受診者数	令和3年度の受診者数は、令和2年度から微減。 令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は12.8%であった。 75歳以上は申込制を継続。216人(16%)が申込をし、92人(42.6%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。									
												H29			H30	R元	R2	R3					
												受診者数					278人	321人	365人	394人	384人		
保健所健康増進課	柏市地域栄養相談システム	生活習慣病等で治療中の市民が、かかりつけ医の紹介により、市内の病院で管理栄養士の栄養指導が受けられるシステム。かかりつけ医での治療及び適切な食事療法を継続し、生活習慣病の重症化予防を図る。	柏市医師会 病院栄養士協議会(柏地区)	①なし ②なし	内臓脂肪症候群の予防、罹患している病状の安定や重症化予防への行動が取れるようにする。							利用者数(延べ数)	令和2年度と同様、感染症拡大につき、受診を控える傾向にあったため、本システムの利用者は減少した。食事療法の必要性を伝えるために作成している周知用リーフレットを、引き続き配付していく。 令和4年度は、新型コロナウイルスまん延のため、2年間実施できていなかった検討会議を実施。本システムを周知していない産婦人科からの依頼が増加しているため、市内産婦人科の意向を確認するためのアンケート調査の実施や、現在使用している様式の見直しを検討し、利用促進につなげるための体制整備を図っていく。	栄養指導を必要としている人に対して、適切な食事療法を行えるよう、引き続きシステムの周知や改善を図る。									
												H29			H30	R元	R2	R3					
												利用者数(延べ数)					214人	184人	186人	141人	131人		

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
保健所健康増進課	健康づくり普及啓発事業(◇)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係	①モラージュ柏 第一生命 ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					図書館及びかわしわインフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。					
												H29	H30	R元	R2	R3							
												1,872人	2,657人	4,973人	2,833人	3,882人			依頼の健康教育参加者数(講師:保健師)				
												-	95人	38人	中止	中止			※H30年度～健康増進課として計上				
保健所健康増進課	地域・職域連携推進事業(*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに取り組む事業所(3社) ②なし	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加								メール配信登録事業所数					令和3年度は協議会をWEBにて開催をし、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また、事業所へのメール配信については、対面での事業展開が難しい中、定期的に健康に関する情報を配信し、従業員のかたの健康づくりに活用いただいた。 令和4年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また講習会についても、関係機関との共催での開催を考慮しており、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見直し、事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。				
												H29	H30	R元	R2	R3							
												36社	47社	60社	62社	61社	講習会参加事業所数						
												29社	52社	43社	中止	中止							

(2) 定期的な健康診査の受診																			
⑥ 柏市国民健康保険特定健康診査の受診率(法定報告)の増加																			
⑦ 柏市国民健康保険特定保健指導の実施率(法定報告)の増加																			
⑧ 糖尿病の指摘を受けたが、放置している人の割合の減少																			
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
市民生活部 保険年金課	柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導 (◇)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>柏市医師会 ちば県民保健予防財団 人間ドック、脳ドック実施医療機関 JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ) 千葉県厚生農業共同組合連合会 沼南商工会 柏商工会議所 千葉県国保連合会</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>生活習慣病の発症及び重症化の予防</p>							特定健康診査受診率(法定報告)(再掲)	<p>①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備群が年々増加していることに対し、特定健診の更なる実施率の向上が必要であることから、「人工知能(AI)を活用した受診率向上」の取組を令和元年度から継続し令和3年度も実施し、3回受診勧奨通知を送付。その内、27%に特定健康診査の受診を確認。</p> <p>②プレ特定健康診査 令和3年度から、若い世代からの健診の習慣化を図ることで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげることを目的に、39歳を対象に「プレ特定健康診査」を開始。受診者数は127人。生活習慣の改善を要する方4人に保健指導を実施。</p> <p>③特定保健指導における電子申請の開始と遠隔面談の実施、インセンティブの継続</p> <p>令和3年度から電子申請による特定保健指導の予約を開始している。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、遠隔面談を実施。また、積極的支援として保健指導を受け、継続した健康づくりの取り組みにより、改善が見られた方に対し、インセンティブを提供。</p> <p>上記①②③の事業を令和4年度も継続し行う予定。</p>	<p>「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。</p>					
												H29			H30	R元	R2	R3	
															42.4%	42.5%	46.8%	42.3%	11月1日以降確定
																			特定保健指導実施率(法定報告)(再掲)
															23.0%	29.0%	30.0%	23.3%	同上
																			メタボリックシンドローム該当者の割合 (法定報告)
															男性 27.4%	28.4%	29.3%	32.8%	同上
															女性 8.3%	8.9%	9.5%	10.6%	同上
																			メタボリックシンドローム予備群の割合 (法定報告)
															男性 17.3%	18.0%	17.7%	17.1%	同上
							女性 5.8%	6.1%	6.1%	6.3%	同上								
											ヘモグロビンA1cが6.1%(NGSP値で6.5%以上の人の割合(年度報告))								
							7.9%	8.1%	8.7%	9.4%	9.1%								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察 及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
市民生活部 保険年金課	国保 保健 事業利用費 助成事業 (18歳から38歳までの 健康診査)	18歳以上の柏市国保被 保険者に対し、申請に基 づく保健事業利用券を 年間8枚交付(1枚1,0 00円相当)。18歳から3 8歳の健診事業、はり等 施術事業、お口のクリ ーニング事業、運動事業に 利用できる。18歳から3 8歳までの健康診査事業 は26年度からの新規事 業。受診希望者に対し受 診券を発行し、特定健診 と同様の健診を実施す る。 令和3年度から39歳を 対象とした「プレ特定健 康診査」が開始したこと から、名称を「18歳から 38歳までの健康診査」 に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健康の保持増進 若い世代からの生活習慣病 予防					○	18歳から39歳までの健康診査実施状況					健診受診の習慣化及び生活習慣病の早期発見、早期治療による重症化の予防を目的に実施。 令和3年度は受診率の向上を図るため、受診勧奨通知を2回送付。1回目は、受診券を申請されていない30歳、35歳～38歳までの方を対象に、8月に受診勧奨通知を送付した。2回目は受診券発行者のうち、受診の確認ができていない方を対象に12月に受診勧奨通知を送付している。 39歳を対象にしたプレ特定健康診査が令和3年度に開始され39歳は対象ではなくなったため、利用者は令和2年度よりも減少している。  ●令和4年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」においては、令和4年度も引き続き、受診勧奨を行い、生活習慣の改善を要する方に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。	
											H29	H30	R元	R2	R3			
											受診券発行数							
											218人	479人	469人	593人	506人			
受診者数																		
138人	291人	310人	315人	295人														
保健所 健康増進課	柏市健康診 査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の 生活保護受給者を対象 に、特定健診と同内容の 健診を指定医療機関に て実施。 対象者に個別通知、希 望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候 群の予防、罹 患している病 状の安定や重 症化予防への 行動が取れる ようにする。					○	○	受診者数					令和3年度の受診者数は、令和2年度から微減。 令和3年度より、40～74歳は申し込み制から全数通知となり、受診率は12.8%であった。 75歳以上は申込制を継続。216人(16%)が申込をし、92人(42.6%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課ケースワーカーからの受診勧奨を継続実施していく。	生活支援課との協働により、受診率向上に努める。
												H29	H30	R元	R2	R3		
												278人	321人	365人	394人	384人		

8. 循環器疾患

(1)若い世代からの循環器疾患の発症予防と重症化予防																			
①循環器疾患の指摘を受けた人の割合の減少																			
②循環器疾患による死亡者数の減少																			
③循環器疾患医療費(国民健康保険 1月あたりの総点数)の減少																			
④LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の割合(40歳以上)の減少																			
⑤収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合(40歳以上)の減少																			
⑥拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合(40歳以上)の減少																			
⑦【再掲】メタボリックシンドローム[内臓脂肪症候群]の該当者及び予備群該当者の割合(40歳以上)の減少																			
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
市民生活部 保険年金課	柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導(◇)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 人間ドック、脳 ドック実施医 療機関 JA(ちば東 葛、東葛ふた ば、いちかわ) 千葉県厚生 農業共同組 合連合会 沼南商工会 柏商工会議 所 千葉県国保 連合会</p>	<p>①なし ②なし</p>	<p>生活習慣病の 発症及び重症 化の予防</p>							特定健康診査受診率(法定報告)(再掲)	<p>①重症化予防事業 特定健康診査を受診した結果、重症化リスクの高い医療機関の未受診者に対して、通知及び電話による受診勧奨と保健指導を行うことにより、医療機関に結びつけるとともに心血管疾患等の重症化への移行を予防する。令和3年度も継続している。受診勧奨により医療機関につながった割合は23.7%であった。(270人中64人)</p> <p>②特定保健指導における電子申請の開始、遠隔面談、インセンティブの実施 令和3年度は、電子申請による特定保健指導の予約を開始。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として、遠隔面談を実施。また、保健指導を継続して取り組み、結果の改善が見られた方にインセンティブを提供。電子申請18人、遠隔面談21人、インセンティブの提供23人(令和4年7月6日現在)。</p> <p>●令和4年度も上記事業を継続する。</p>	<p>「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。</p>					
											H29	H30			R元	R2	R3		
												42.4%			42.5%	46.8%	42.3%	11月1日以降確定	
												特定保健指導実施率(法定報告)(再掲)							
												23.0%			29.0%	30.0%	23.3%	同上	
												LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)							
												全体			31.0%	30.6%	31.7%	32.7%	31.6%
												男性			26.2%	25.7%	26.8%	27.9%	27.0%
												女性			34.2%	33.9%	34.9%	35.9%	34.7%
												収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)							
												全体			23.5%	22.8%	23.1%	27.0%	26.2%
												男性			26.6%	25.5%	25.3%	28.8%	27.8%
												女性			21.4%	21.1%	21.6%	25.9%	25.3%
												拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)							
						全体	12.0%	10.8%	11.3%	12.8%	11.9%								
						男性	16.1%	14.3%	14.6%	15.9%	14.9%								
						女性	9.2%	8.4%	9.1%	10.6%	10.0%								

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
市民生活部 保険年金課	国保 保健 事業利用費 助成事業 (18歳から3 8歳までの 健康診査)	18歳以上の柏市国保被 保険者に対し、申請に基 づき保健事業利用券を 年間8枚交付(1枚1,0 00円相当)。18歳から3 8歳までの健康診査事 業、はり等施術事業、お 口のクリーニング事業、 運動事業に利用できる。 18歳から38歳の健診 事業は26年度からの新 規事業。受診希望者に 対し受診券を発行し、特 定健診と同様の健診を 実施する。 令和3年度から39歳を 対象とした「プレ特定健 康診査」が開始したこと から、名称を「18歳から 38歳までの健康診査」 に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健 康の保持増進 若い世代からの 生活習慣病予 防							18歳から39歳までの健診実施状況	「18歳から38歳までの健康診査」 健診受診の習慣化及び生活習慣病 の早期発見、早期治療による重症化 の予防を目的に実施。 令和3年度は受診率の向上を図るた め、受診勧奨通知を2回送付。1回 目は、受診券を申請されていない30 歳、35歳～38歳までの方を対象 に、8月に受診勧奨通知を送付し た。2回目は受診券発行者のうち、 受診の確認ができていない方を対象 に12月に受診勧奨通知を送付して いる。 39歳を対象にしたプレ特定健康診 査が令和3年度に開始され39歳は 対象ではなくなったため利用者は令 和2年度よりも減少している。  ●令和4年度の取り組み 18歳から38歳までの健康診査にお いては、令和4年度も引き続き、受診 勧奨を行い、生活習慣の改善を要す る方に対し、保健指導を実施する。	「柏市国民健康保険第 2期保健事業実施計画 (データヘルス計画)」 、「柏市国民健康保険第 3期特定健診等実施計 画」の計画期間の中間 評価を踏まえた取組を 実施する。				
						H29	H30	R元	R2	R3	受診券発行数							
						218人	479人	469人	593人	506人	受診者数							
						138人	291人	310人	315人	295人								
保健所 健康増 進課	柏市健康診 査 (無保険者) (* )	40歳以上で、無保険の 生活保護受給者を対象 に、特定健診と同内容の 健診を指定医療機関に て実施。 対象者に個別通知、希 望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候 群の予防、罹患 している病状の 安定や重症化 予防への行動 が取れるように する。							受診者数		令和3年度の受診者数は、令和2年 度から微減。 令和3年度より、40～74歳は申し 込み制から全数通知となり、受診率 は12.8%であった。 75歳以上は申込制を継続。216人 (16%)が申込をし、92人(42. 6%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課 ケースワーカーからの受診勧奨を継 続実施していく。	生活支援課との協働に より、受診率向上に努 める。			
						H29	H30	R元	R2	R3	278人		321人			365人	394人	384人





(2) 定期的な健康診査の受診																			
⑧【再掲】柏市国民健康保険特定健康診査の受診率(法定報告)の増加																			
⑨【再掲】柏市国民健康保険特定保健指導の実施率(法定報告)の増加																			
⑩循環器疾患の指摘を受けたが、放置している人の割合の減少																			
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性					
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期								
市民生活部 保険年金課	柏市国民健康保険特定健康診査・ 特定保健指導 (◇)	<p>&lt;特定健康診査&gt; 40歳以上の柏市国保加入者を対象に、生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>&lt;特定保健指導&gt; 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、3か月以上の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・柏市医師会</li> <li>・ちば県民保健予防財団</li> <li>・人間ドック、脳ドック実施医療機関</li> <li>・JA(ちば東葛、東葛ふたば、いちかわ)</li> <li>・千葉県厚生農業共同組合連合会</li> <li>・沼南商工会</li> <li>・柏商工会議所</li> <li>・千葉県国保連合会</li> </ul>	<p>①なし</p> <p>②なし</p>	生活習慣病の発症及び重症化の予防							特定健康診査受診率(法定報告)(再掲)	<p>①受診勧奨事業 メタボリックシンドローム該当者及び予備群が年々増加していることに対し、特定健診の更なる実施率の向上が必要であることから、「人工知能(AI)を活用した受診率向上」の取組を令和元年度から継続し令和3年度も実施。年3回受診勧奨通知を送付。その内、27%に特定健康診査の受診を確認。</p> <p>②プレ特定健康診査 令和3年度から、若い世代からの健診の習慣化を図ることで、生活習慣病の早期発見・早期治療につなげることを目的に、39歳を対象に「プレ特定健康診査」を開始。受診者数は127人。生活習慣の改善を要する方に対し、4人に保健指導を実施。</p> <p>③特定保健指導における電子申請の開始、遠隔面談、インセンティブの実施 令和3年度は、電子申請による特定保健指導の予約を開始。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止として、遠隔面談を実施。また、保健指導を継続して取り組み、結果の改善が見られた方にインセンティブを提供。電子申請18人、遠隔面談21人、インセンティブの提供23人(令和4年7月6日現在)。</p> <p>④重症化予防事業 特定健康診査を受診した結果、重症化リスクの高い医療機関の未受診者に対して、通知及び電話による受診勧奨、保健指導を行うことにより、医療機関に結びつけるとともに心血管疾患等の重症化への移行を予防するため、令和3年度も継続している。受診勧奨により医療機関につながった割合は23.7%であった。(270人中64人)</p> <p>●令和4年度の取り組み ①については、令和4年度は更なる効果的な受診勧奨業務とするため、ITを活用した受診勧奨通知に変更する。その他の事業については継続する。</p>	「柏市国民健康保険第2期保健事業実施計画(データヘルス計画)」、「柏市国民健康保険第3期特定健診等実施計画」の計画期間の中間評価を踏まえた取組を実施する。					
						H29	H30	R元	R2	R3	42.4%	42.5%			46.8%	42.3%	11月1日以降確定		
						特定保健指導実施率(法定報告)(再掲)						23.0%			29.0%	30.0%	23.3%	同上	
						LDLコレステロールが140mg/dl以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						全体			31%	30.6%	31.7%	32.7%	31.6%
												男性			26.2%	25.7%	26.8%	27.9%	27.0%
												女性			34.2%	33.9%	34.9%	35.9%	34.7%
						収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						全体			23.5%	22.8%	23.1%	27.0%	26.2%
												男性			26.6%	25.5%	25.3%	28.8%	27.8%
												女性			21.4%	21.1%	21.6%	25.9%	25.3%
						拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合(40歳以上)(年度報告)						全体			12%	10.8%	11.3%	12.8%	11.9%
												男性			16.1%	14.3%	14.6%	15.9%	14.9%
												女性			9.2%	8.4%	9.1%	10.6%	10.0%

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規 連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と 考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
市民生活部 保険年金課	国保 保健 事業利用費 助成事業 (18歳から3 8歳までの 健康診査)	18歳以上の柏市国保被 保険者に対し、申請に基 づき保健事業利用券を 年間8枚交付(1枚1,0 00円相当)。18歳から3 8歳までの健康診査事 業、はり等施術事業、お 口のクリーニング事業、 運動事業に利用できる。 18歳から38歳までの健 康診査事業は26年度か らの新規事業。受診希望 者に対し受診券を発行 し、特定健診と同様の健 診を実施する。 令和3年度から39歳を 対象とした「プレ特定健 康診査」が開始したこと から、名称を「18歳から 38歳までの健康診査」 に変更。	柏市医師会	①なし ②なし	被保険者の健 康の保持増進 若い世代からの 生活習慣病予 防							18歳から39歳までの健康診査実施状況	「18歳から38歳までの健康診査」 は、健診受診の習慣化及び生活習 慣病の早期発見、早期治療による重 症化の予防を目的に実施。 令和3年度は受診率の向上を図るた め、受診勧奨通知を2回送付。1回 目は、受診券を申請されていない30 歳、35歳～38歳までの方を対象 に、8月に受診勧奨通知を送付し た。2回目は受診券発行者のうち、 受診の確認ができていない方を対象 に12月に受診勧奨通知を送付して いる。 39歳を対象にしたプレ特定健康診 査が令和3年度に開始され39歳は 対象ではなくなっていることから、利 用者は令和2年度よりも減少してい る。  ●令和4年度の取り組み 「18歳から38歳までの健康診査」に おいては、令和4年度も引き続き、受 診勧奨を行い、生活習慣の改善を要 する方に対し、保健指導を実施す る。	「柏市国民健康保険第 2期保健事業実施計画 (データヘルス計画)」、 「柏市国民健康保険第 3期特定健診等実施計 画」の計画期間の中間 評価を踏まえた取組を 実施する。				
						H29	H30	R元	R2	R3	受診券発行数							
						218人	479人	469人	593人	506人	受診者数							
						138人	291人	310人	315人	295人								
保健所 健康増 進課	柏市健康診 査 (無保険者) (*)	40歳以上で、無保険の 生活保護受給者を対象 に、特定健診と同内容の 健診を指定医療機関に て実施。 対象者に個別通知、希 望者は申し込み。	生活支援課 柏市医師会	①なし ②なし	内臓脂肪症候 群の予防、罹患 している病状の 安定や重症化 予防への行動 が取れるように する。							受診者数					令和3年度の受診者数は、令和2年 度から微減。 令和3年度より、40～74歳は申し 込み制から全数通知となり、受診率 は12.8%であった。 75歳以上は申込制を継続。216人 (16%)が申込をし、92人(42. 6%)が受診した。 受診率向上のため、生活支援課 ケースワーカーからの受診勧奨を継 続実施していく。	生活支援課との協働に より、受診率向上に努 める。
						H29	H30	R元	R2	R3								
						278人	321人	365人	394人	384人								

9. がん

(1)がんの発症を防ぐための生活習慣等に関する知識の普及																		
①がんによる死亡者数の減少																		
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性				
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期							
保健所 総務企画課	がん対策	・がん対策検討会議(議員及び庁内関係部署、がん診療連携拠点病院)の開催 ・議会への事業報告 ・保健衛生審議会への報告	庁内関係部局 がん診療連携拠点病院 医師会など	①なし ②なし	「柏市がん対策基本条例」に基づき関係機関との連携のもと、がん対策を効果的かつ効率的に推進	○	○	○	○	○	○	がん対策検討会議実施状況					・がんに関する健康課題についての直接的な取り組みではないが、がん対策検討会議を書面にて1回実施。柏市におけるがん対策について、がん対策関係部署とがん診療拠点病院及び千葉県がん診療連携協力病院間にて情報及び課題を共有した。	第3期がん対策推進基本計画や国・県の動向を踏まえた上で、柏市全体としての取り組みを関係機関で共有・検討しながら、がん対策を推進していく。
						がん対策検討会議実施状況					H29	H30	R元	R2	R3			
						4回	2回	2回	1回	1回								
保健所 保健予防課 保健所健康増進課	肝炎ウイルス検査	柏市民で、これまで肝炎ウイルス検査を受けたことがなく、他で検査を受ける機会のないかた、感染を心配するリスク行為があったかたを対象に検査を実施。	柏市医師会	①なし ②なし	肝炎ウイルス感染を早期に発見し、適切な検査・治療へつなぐことで、肝硬変や肝がんへの進行による重症化を防ぐ	○	○	○	○	○	○	肝炎ウイルス検査実施数					令和3年度では、市の広報紙、ホームページにて周知・啓発を実施。また、平成28年度より陽性者フォローアップ事業を開始し、検査結果が陽性となった方へ精密検査受診勧奨を行い、受診や治療へ結びついているかどうかを確認している。昨年の陽性者はB型が22名、C型が4名となっている。 ①肝炎ウイルス検査を広く周知するため、ホームページ、広報を利用する。 ②平成30年度で、平成26年度からの5歳刻みへの通知が一巡し、令和元年度から未受診者へ対して2回目の発送となっている。一巡目未受診者への個別勧奨を継続し、未受診者を減少させる。	継続して対象者への個別勧奨及び陽性者フォローアップ事業を継続していく。
						肝炎ウイルス検査実施数					H29	H30	R元	R2	R3			
						7,185人	8,194人	4,535人	4,492人	4,393人								



(2)がん検診の受診																						
②胃がん検診受診率の増加																						
③大腸がん検診受診率の増加																						
④子宮がん検診受診率の増加																						
⑤乳がん検診受診率の増加																						
⑥結核・肺がん検診受診率の増加																						
所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性								
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期											
保健所健康増進課	がん検診	「がん検診重点健康教育及びがん検診の実施のための指針」(厚生労働省)に基づき、胃、大腸、結核・肺、乳、子宮の各がん検診の実施。	柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 医療センター	①なし ②なし	各がんの早期発見、早期治療に結びつける。							がん検診受診率	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度に新型コロナウイルス蔓延による受診控えの影響が考えられる受診率低下があったが、令和3年度は胃がん、大腸がん、乳がん、結核・肺がんについて受診率が上昇し、令和1年度並みに受診率回復傾向がみられる。</li> <li>集団検診会場では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため関係機関(柏市医療センター、ちば県民保健予防財団)とともに感染症対策を講じた上で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受診率向上のための取り組みとして個別の登録勸奨、未受診者の再勸奨、キャンペーン等の啓発活動を進めていく。</li> <li>子宮頸がんの好発年齢である20～30代の受診者数増加に向けた取り組みを重点的に行う。</li> </ul>								
						H29	H30	R元	R2	R3	8.2%	8.0%			10.7%	8.0%	9.6%					
						胃がん検診						16.5%			15.3%	14.7%	13.3%	14.4%				
						大腸がん検診						26.6%			26.1%	24.9%	23.7%	23.4%				
						子宮頸がん検診						30.0%			27.8%	35.2%	30.4%	32.7%				
						乳がん検診						14.7%			14.2%	13.7%	12.1%	13.5%				
						結核・肺がん検診																
						クーポン利用率																
						H29						H30			R元	R2	R3	24.5%	22.8%	23.3%	20.4%	31.2%
						乳がん						2.9%			4.2%	4.0%	6.4%	8.2%				
子宮頸がん																						
保健所健康増進課	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業	特定の年齢のかたに無料クーポン、検診手帳(啓発用)を送付し、該当するがん検診について、無料で受診することができる。対象となるがん検診は、乳、子宮頸がん検診(大腸はH27年度まで実施)。個別の受診勸奨(新規登録)・再勸奨(がん検診登録者の一部)を実施。  精密検査未受診者に対する受診勸奨通知及び特定の年齢に達する対象者への受診勸奨を行う。	柏市医師会 ちば県民保健 予防財団 医療センター	①なし ②なし	がん検診を受けるきっかけとして、今まで受診したことがない人が受診することで、受診率向上に寄与する。							クーポン利用率	個別の受診勸奨について、令和3年度は令和2年度の対象者も含め実施した。  ・対象者に検診手帳(リーフレット)、無料クーポン券、検診票等の送付 ・要精密検査者への受診勸奨、受診確認 ・対象者がクーポン券を利用してがん検診を受診する場合の自己負担分の費用の全額助成	検診手帳、無料クーポン券等を送付し、がん検診の受診促進、早期発見につなげ、がんによる死亡者の減少を図る。  精密検査未受診者の受診率の向上及び精密検査受診率の向上。								
						H29	H30	R元	R2	R3	24.5%	22.8%			23.3%	20.4%	31.2%					
						乳がん						2.9%			4.2%	4.0%	6.4%	8.2%				
						子宮頸がん																

所管課	事業名	事業概要 (対象者・内容等)	連携機関	①民間企業 ②令和3年度新規連携機関・部署	期待する効果	ライフステージ						実績値 (実施回数・参加者数・参加率等)	令和3年度取り組みの成果、今後の課題と考察及び令和4年度の取り組みについて	令和5年度の方向性									
						乳幼児期	学童期	思春期	成年期	壮年期	高齢期												
保健所 地域保健課	啓発事業 (*)	イベントの中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 柏市民健康づくり推進員 各種団体及び企業関係	①なし ②なし	幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。							啓発実施者数(全数)					新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動が制限される中ではあったが、一部団体で市民向けの健康教育を実施した。令和4年度は依頼の健康教育を全面的に再開予定。また、参集型以外の方法で啓発の機会を確保することができるよう検討していく。	年間計画に基づいた啓発を実施する。					
												H29	H30	R元	R2	R3			2,169人	758人	651人	中止	37人
保健所 健康増進課	健康づくり普及啓発事業 (*)	イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ、がん検診登録奨励、がん予防等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	庁内関係各課 各種団体及び企業関係 ふるさと協議会 柏市医師会	①なし ②なし	・幅広いライフステージの市民を対象にポピュレーションアプローチをすることで、健康に関する気づきの場を作る。  ・がん検診新規登録者数の増加							啓発実施者数(全数)					図書館及びかわいんフォメーションセンターにて、展示による啓発活動を実施した。今年度より、出前講座の受付を再開。健康づくりに関するパンフレットの作成予定。	効果的な啓発実施のための情報収集や、方法についての検討・実施につなげる。					
												H29	H30	R元	R2	R3			1,872人	2,657人	4,973人	2,833人	3,882人
												啓発実施者数(がん)											
												1,450人	2,003人	2,409人	1,500人	1,486人							
												健康教育参加者数(講師・保健師)											
												-	13,782人	16,909人	中止	中止							
												がん検診新規登録者数(延人数)											
						28,873人	23,084人	19,139人	13,308人	20,563人													
保健所 健康増進課	地域・職域連携推進事業 (*)	柏地域・職域連携推進協議会 事業所向けの健康情報等のメール配信 啓発リーフレットの配付 事業所向け講習会	柏労働基準監督署 柏労働基準協会 柏商工会議所 柏市沼南商工会 代表企業(2社) 東葛北部地域産業保健センター 全国健康保険協会千葉支部 柏市医師会 柏歯科医師会	①健康づくりに取り組む事業所(3社) ②なし	働く世代の生活習慣病予防とこころの健康づくりの推進  社員の健康づくりに積極的に取り組む事業所の増加							メール配信登録事業所数					令和3年度は協議会をWEBにて開催をし、各関係団体のかたと情報共有・交換を実施することができた。また、事業所へのメール配信については、対面での事業展開が難しい中、定期的に健康に関する情報を配信し、従業員の健康づくりに活用いただいた。令和4年度はハイブリッドでの協議会の開催を予定しており、各委員の状況に合わせた会議参加への環境整備を進めていく。また講習会についても、関係機関との共催での開催を考慮しており、地域保健と職域保健が連携を図りながら進めていく。	協議会の在り方を見直し、事務局の一方的な情報発信にならないようお互いにディスカッションを心掛け、働く世代の生活習慣病予防などの健康づくりを継続的に取り組んでいく。					
												H29	H30	R元	R2	R3			36社	47社	60社	62社	61社
												講習会参加事業所数											
												29社	52社	43社	中止	中止							